

新約聖書路加傳

全

02-SI

海老澤文庫

耶穌降生一千八百十六年 米國聖書會社

新約聖書路加傳

明治九年 日本橫濱上梓

海老澤有道文庫

新約全書 路加傳福音書

第一章

親しくみて道につづけたり。二、記載んとあらざる人々これらと手よきあるやう。貴きテヨビロよ。されば原よりもくちの事とつまひり。考究されば次第をうしてるんぢよ。書あらう。四、るんぢう。されどこうの確實とさくらせんとあらう。○五、ユダヤの王ヘロデのときよ。アビアの班ある祭司ザカリアとソム。りのあり。その妻ハアロンの裔にて名をエリサベツといふ。六、よりに神のまことを義人あり。まこと主の説命と礼儀を

のけゑくわらゑく。エリサベツ女キミやあよウキうに
子キ。まキ二人ツの年カ老カねハサカリア。その班次カムキ。あ
りて神カミのまキ祭司カミシの職ツをあクあフときカミ。祭司カミシの例カミシ
ケハ籤カミをとりて主シテのみやヨウ香カミを焼カミくとト得タく。うを
まキうとキ衆カミのひとトハミみア外カミよアそリのきト。
主シテのへクひ香壇カミのみキよウちトザカリアにあらわれタく。
ザカリアこルとミてあクそトあラるタ天ミ使カミうキたトいヒり
ハザカリアよアそラあウれアんチのねカひミをマきたマ
アス。あんちの妻エリサベツ男キ子スとラまンその名ニヨハ子スとラづ
べキ。あんちようカびトうカみアらんアふくの人。

まキそのうまきにマすトよウびアらん十五それア子主
のまキよ大あラんマまキ葡萄カガラ酒スと濃酒カシカとトのまド。母カの
胎カよりうまれカ聖靈カミノミ充カさム。まキイスラエルカの民カ
のあフくのひとトを主あるシ。その神カミは歸服カミまカせキ。あり
かキエリアの心カと才能カとモりて主のまキよウらんアれ父カ
のうカろに子を慈カむセ。逆カりの義カ人の智カにカらせ。主シテ
のうカめアよアらカる民を備カミんとアうトハザカリア天使カミ
ウカりケる。うカきカでア年カあウ妻カミもマと年カ邁カくれく
何カよアうトうカのトあクをアらん十九天ミ使カミうカてトひけ。
ハカヅレハカブリアルトて神の前カうカりアり。あんちよ

かくうりて さみ よろこびの音を つげん あめ と奉使され
キ その時 ひきうて うあくを 應驗 す。まづ こうじを 信ぜき
に より。あんちあーとありて ころと の成日まで りのいふ
ことあくまし。二民 サカリアを まちゆて。その神殿のうちに
ひきうきを あやむ ザカリア ひきう首を みつる。うそを
さううふ。うねうの聖殿のうちにて 異象 トドカラシ
さううだ。ザカリア ひきう首を みつる。うそを
とふきう 三 その職事の日 みちけきふ家 ようぐりぬる
後 その妻 エリサベツ をうそで うれきうること 五ヶ月
して 五 ひひけふ。主 まこと 耻を人のあうに まかせん
あ

に眷顧 まよと まくら うの ごく。これ ゆぢせり。○ 二
六ヶ月 もあくらガリラヤのナザレと あづけうる邑のダビデ
の家のヨセフと うる人よ 所聘 うる處女へ。神 ようガブリ
エルと ひふ 天使 とつも されう。そのとどもの名ハマリアと
ひひ うひこのとめに ひひ ひひけふ。めでとく や
あくらのよ 主 あんちと偕 ともに ひす。あんぢ女のもと
福 あるゆのあり 元 とくめ 虞女 そのことをと評 うのあいきうひ
あることをあり う 天使 ひひけふ。マリア よあそ
あられ あんちの神 よりめぐみをえら 三 あんち うらみて
男子 とうすん。その名を 耶稣 とあくべ 三 うれ 大き

りのとろりて至上者の子ととろへらすん。まゝ主くる
神その先祖ダビデ王の位をうれもあらうよそヤコブの
家とうきり多く支配もぐく。まゝその國とあることあら
ざく三マリア天使よりひりく。これにまざ夫よ適さる
ゆいきよしてこのことあべきや三天使こそそりひけり
ハ聖靈四あんぢよ臨りととろきりの大能あんぢとあ不
もん。このやゑよあんぢかうむととろの聖あらりのハ神
の子ととろへらだべ三六それあんぢの親戚エリサベツキ
も年あ以て男子ともらめり。素そらみうきりのとい
それだべ三七ゲのよまをよそらみて六ヶ月よりぬ三八そん

神にありてもあらうざることうけきばかり三六マリアひひ
けく。こまかにこれ主の使女あり。あんぢのりぐるごとく
我よあきう。天使つひよくまととまきて三九そのこう
マリア起三九てまゝやま山地五〇ユダのむらにゆきザカリア
の家五〇よりエリサベツ五一あのまろちくしにエリサベツ
マリアのあのまろとまく。その胎孕五二そらのうちと
跳動五三た。エリサベツ聖靈五四よまくされ四五あホニ名よ呼りひ
けく。女のうちにとあんぢはまひひるりのあり。ま
姪五五とまうのりのりのさいもしるり四五ヨク主の母五七よ
きく。これあるよりてあらのことを得五八それあんぢ

のありきるの聲。耳よりとま。もうみ子ようむ
てヨリゲ腹内よどき。四主のことを信せり。りのひさい
もひあり。そひ主のこりたまひ。ごとくうふくを
あくべければあり。四六マリア。りひけり。ヨリコロ主とあぐめ
ヨリケタマヒヘヨリ。救主。神とすうぶ。四八。これそひ
使女のひやしきとも眷顧。こよふがゆああり。りよドリのち
萬世まで。我とまひあるゆとどよふべ。四九。それ
權能とりもくまへりの我。よあわいあることをあせり。
その名へきよ。五〇。そのあむれ。ハ世々。われを敬畏り。よ
あよそん。五一。その臂のちうらとあくべて心の驕るゆの

とちらり 権柄あるゆのと位よりあら。卑賤ゆのとあげ
至る 飢うりゆと美食もあらず。富うりゆとむろく
らをさまへ アブラハムとその子孫とくまくあらね
らをアラサキボ五四 そり僕イスラエルと扶持五五
られヨリヨリの先祖よりひよまひへ五五 リア
エリサベツとモリス五七 三ヶ月五八 あり家五九
マタタキ五九 きてエリサベツ産期五九 男五九 そ
隣里のりのまゝ親戚のゆの主五九 エリサベツにあらゆる
慈悲とこれたよひへ五九 きそとよりにようびり五九
第八日五九 もよびけきぐうきり子に割礼せんとてきまう。

その父の名はヨウザカリアと名づけんとせよ。母のうちへもあらまくからをヨハネと名づけり。とりひれべ六ヶ月からエリサベツにむかひてりしけん。るんぢが親戚のうちへこの名とあづけしものる。六ヶ月からつひよそひ父よ頭にて示意。いふ。あらわんとありかう問だよ。三サカリア寫字板を請てそひ名ハヨハネありとかき。皆あやめり。六四サカリアの口だらちよひりそ。舌とけりのひひて神とあめり。六五そひ隣里にまみる人々らあらきぬ。まよまよそひのこゑとあまねくユダヤの山地よりひからされ。六六まよみふ一れを心よ。

とめそ。この子ハリクムリのよやあらんといへり。さて主の手をきととめにあり。六七父ザカリア聖靈よりされ預言してひけ。六八主よりイスラエルの神ハ讚美べき。されその民を眷顧してあらみひとる。六九又よきより。拯教の角をそなへ。ダビデの家よとせたまへばあよ。とより聖なる預言者の口となりてひしゆかひ。七〇またよきうちからを敵まよまよとよきらを悪り。手よりひづを拯教あり。七一仁恵とよきの先祖よ和どら。七二またその聖約ヒリキヤドとあり。アキラの先祖アブラハムよとそろの誓よ。七三アキラを敵の

手よりまくひ。ヨリモの生涯と聖と義をあつてあそれ
多く主に服事しめんとあり。キリストよろんぢ主にさきももそ
のよげんじやとともへらきん。ソハヨルンぢ主にさきももそ
ゆき。その路を備んとまきびあり。神のやうき憐憫より。
その罪をやうされてもくもきんことを。その民もあめん
もあめり。そのあめれみよよりて旭のひうち。うつよう。九
幽暗と死蔭もあめりのとてら。ヨリキの足とみちび
きてやまうるある路よりせんとのぞめり。八
キキム子いや成長し精神まもく強健よしてイスラエル
もあらうの日まで野よきき

第二章 そのうち天下のこせきとあらう詔 カイザルアウグスト
おりひづりこひ戸籍あらべハクレニオスリヤ伐ききめ
ときの初次にあらうれたり。あらう人みふ、アセキよ
つうんとてあゆくその故邑にうまたり。四セフもダビデの
宗族まゝ血統あまびうせきたつんとて五まぐよ孕るそ
所聘の妻マリアとともにガリラヤのむらナザレよりひそ
ユダヤのアリ。ダビデのむらベツレヘムといふところより
れり。六ここにきて産期みちければ家子をうそそれと布
よつて槽よ臥せう。二ふ客舎もうまくうのうちとつる
あらう。七汝あるう。八おあくう。九羊と牧りのあくう。

ケ野々さうて夜間その群とまりりまうしユ主の天使き
うて主の榮光^{えいこう}うきらをめぐらすけきふ。牧者あら
ひよあそれまう十天^{てん}使こられよいひけふ。あそくことあら
れ。され萬民^{ばんみん}ようまうる。あらのあらようこひの音を
あんぢうにしめまう。それ今日ダビデの邑^いあらそ
あんぢうのあめ^め救主^{きよしゆ}うまれこまう。され主^{じよ}キリスト
より十三^{じゅうさん}あんぢう布^ふみてつまう。嬰兒^{よしお}の槽^{くわ}よ臥^{くわ}くとみん
これその徵^ひ十三^{じゅうさん}忽然あらぐの天軍あらうき天使とも
に神と讚美^{ほめ}てりむけふ十四^{じゅうよん}天上とくろすいえいくまう
神^{じん}すあま。地^ちの平安。ひとよめぐみあき十五^{じゅうご}天使あらうき

うをさうて天にさされ。羊とふりのうひよいひい
ういきベツレヘムよやき主のちめくらます。そなあく
らとみんとそりをきりう。マリアとヨセフまた槽よ
あうる嬰兒よううきあく。まく見て。この子よ
つき。天使のうめられることをつげひうめけき。大き
きのみふ羊とふりのううれることを奇たり。マリアへ
まじてうめうることを心よもてありひめふうきぬ。羊
をうかのその見聞せ。とこう悉あひきよかうれう
うれくあるよ。神とあがめう讚美でうきう
の二子よ割礼をあうふざま八日の日みもけき。その

いまだ胎よりおどりざるまことに天のつうひの稱トス。——とく名
に耶穌イエスとよみてモーセの例ヨハネもあらびて潔日ミカヨリ
けきふモクシテとモクシテとモクシテ主モクシテ。又モクシテげんがモクシテめエルサレム
にモクシテのモクシテされ主モクシテのモクシテあきモクシテよモクシテめようすモクシテ男モクシテ子モクシテ
主モクシテの聖モクシテりモクシテのモクシテとモクシテあきモクシテれモクシテうがモクシテとモクシテ西モクシテま
ものモクシテあきモクシテ班モクシテ鳩モクシテひモクシテうモクシテ或モクシテハ離鴿モクシテきモクシテろモクシテをモクシテあモクシテア
といモクシテつモクシテよモクシテあモクシテふモクシテりモクシテ祭モクシテとモクシテみモクシテきモクシテんモクシテとモクシテ西モクシテ三モクシテ主モクシテエルサレム
ユシメオモクシテンモクシテとモクシテ人モクシテあり。よモクシテひモクシテく義モクシテとモクシテ虔誠モクシテあり。西モクシテ四モクシテ
イスラエルモクシテの民モクシテのモクシテあモクシテづモクシテめモクシテられモクシテんモクシテとモクシテ西モクシテ五モクシテ主モクシテのモクシテキリストモクシテをモクシテみモクシテざモクシテ
うモクシテ聖靈モクシテそのモクシテうモクシテよモクシテとモクシテきモクシテ六モクシテ主モクシテのモクシテキリストモクシテをモクシテみモクシテざモクシテ

うちモクシテ死モクシテあモクシテドモクシテとモクシテ聖靈モクシテよモクシテあめモクシテきモクシテきモクシテモモクシテうきモクシテ聖靈モクシテ感モクシテ
て神殿モクシテよモクシテりモクシテきモクシテ。兩親モクシテその子モクシテ耶穌モクシテをモクシテあモクシテきモクシテのモクシテあモクシテりモクシテに
あモクシテきモクシテ行モクシテらモクシテとモクシテうモクシテきモクシテきモクシテにモクシテシメオモクシテンモクシテをモクシテみモクシテきモクシテ
祝モクシテいモクシテ神モクシテを讚美モクシテりモクシテひモクシテりモクシテ主モクシテよモクシテまモクシテその所言モクシテをモクシテあモクシテ
りモクシテ僕モクシテとモクシテ安然モクシテよモクシテ世モクシテをモクシテ逝モクシテせモクシテよモクシテ三十モクシテ日モクシテまモクシテでモクシテ萬民モクシテ
のモクシテまモクシテよ設モクシテだモクシテひモクシテ救モクシテとモクシテみモクシテりモクシテこれ異邦人モクシテをモクシテてモクシテらモクシテさん
光モクシテありモクシテ三モクシテまモクシテよんモクシテぢの民モクシテイスラエルモクシテの榮モクシテありモクシテそモクシテの父母モクシテのモクシテ父モクシテ母モクシテのモクシテまモクシテよモクシテつモクシテのモクシテそモクシテうモクシテれモクシテことモクシテ奇モクシテきモクシテぬモクシテ三モクシテまモクシテシメオモクシテンモクシテ
うモクシテきモクシテらモクシテ祝モクシテてモクシテそモクシテの母モクシテマリアモクシテよモクシテいモクシテひモクシテけモクシテ。この嬰兒モクシテのモクシテイモクシテス
ラエルモクシテのモクシテあモクシテるモクシテ人のモクシテ頬モクシテてモクシテうモクシテ興モクシテらモクシテんモクシテこモクシテとモクシテいモクシテひモクシテきモクシテらモクシテひ

をうけんその號よこさり。三五 されあらくの心のよひの
顯露きんぐあめあり。三六 剣あんぢがごろすも刺透ペー
○三六 アセルの支派バスエルのむきをめよアシナとりづる預言者
あり。うきん甚くありゆり。その處女ありとま夫ユ
適て七年よりにちよき三七 の老女いよひかわよそ八十
四歳の嫠るりしが。神殿とちよのきを夜もひよも禁食と
祈禱をとへ神よつへなり。三八 のときこの老女もかたもら
にうち主と讚美し。三九 エルサレムにて贖金のそめるま
での人よこの子のことをうき。○三九 主のあきよもあ
さひてことくをもうけき。ガリラヤのあひがむら

ナザレよくまなう四零 その子や成長して精神をより
よ智慧みち神の恩寵そのうよきき。○四一 さてその
あや年じよ超越の節よエルサレムへゆき。四二 われ
十二歳のときまたいひの例よあくひエルサレムにのる
き。四三 節日とぞりてくりゆきりよ。その子耶穌のエルサレム
よとよきりぬ。あくひにヨセフと母これらをあくひ四四 同行人
のうちよきくありひ。一日程をゆきて親戚あくびの
りのよきくね。四五 あもきりけき。われとよくねて
エルサレムよくう四六 三日れのち聖殿とあひだよ。うき
教師のうちよ坐し。う聽う問ひう聞ひのえ

その智慧とその應對とをあやしくせり。兩親の事を
みそあどうき。母のわれよひひけふ。子よ何ぞ引きて
如此ああああ。あんぢの父とされとうまひてえんぢ
をうづきうづき。四九 耶穌こうえり。あらゆるひれを尋ね
るや。うきくら父の事をつもぐまをあらざう。五
さまど兩親へそのうづきることをさくま。五
五 耶穌これと
ともよくさう。ナザレヌクうてうれらにあらひとき。五
その母うきらのまごのことをこうよとめぬ。五
五 耶穌ちゑもよもじりゆまく。神と人とにまきく愛せ
らまくたう

第三章 テベリオ カイザル在位の十五年。ポンテオ ピラトハ
ユダヤの方伯となり。ヘロデハガリラヤの分封君となり
その兄弟ヒリホハイツリアあり。ビラコニテの地の分封君
となり。ルサニアハアビレネの分封君となる。ニアシナス
とカヤハ祭司の長となり。とき。ザカリアの子ヨハネ
野よき。神の命令をうけヨルダンの河とすむるまで
での地よき。罪の救えをえんがためよくな。さ
めのバブテスマを宣つて。四 預言者イザヤのことなどを
あらわす書。野によくる人のことあり。いそく主の道
をそろへ。そのみちを直せよ。五 まだぐの谷へらめ

られ。まぐろの山嵐さんじゆハなほけられ。屈曲まげくたるるるやく。
崎嶇せきとうハやまくせざれ六りもく人々ひとびとみる神かみのまぐひをみるとも
得んとあらがセ於此ハ「アラスマ」をうけんとそきれる
衆しゆヨハネシひけセへ。あく蝮蛇おとわのまよ。誰だがふんぢらス
きくらんとも怒こきことをつげセ。さう悔改カミガタ
ヨウムる果かをむきよべ。そんぢら心こころはされう。祖お父ちアブラ公アラハありとありふとあられ。これあんぢらにつげん。
神カミハ能カナうの石イシをアブラ公アラハの子ことあらへむ。いまや
斧アハを樹ツリーのねねある。ゆゑよまくして善果ミツハをむきよする
樹ツリーハきられて火ヒよあせゆきシテあり。ひとりくヨハネシ

トカセリひけシきくらんそれら何なにとあまくまやシ答ハシメてひ
けくらんまうの衣服ウエアとりそるりのひりくぬりのよきりあ
くくよ食物フードとりそるりのも亦またあくまくシ。税吏ハラヒも「ア
テスマアテスマ」をうけんとそきくらう。いひけシ。師シテよつらまくらシ。あま
をあまくまシ答ハシメてひけシ。定例シテの税銀ハラヒのふくにあら
くともことあられ。兵卒ヒンスルもまたとあてひひけシ。あれど
あすとなまくまや。答ハシメてひけシ。人と強暴カミヤウ。あひ誣ミサシ
うつうつことあるあられ。うつとううの給料ハラヒとりて足シテりとまくシ。十五民ヒンまちきくシときくらぬ。衆シみるうろ
ヨハネシキリストキリストありやいあと付度ハシメ。ヨハネシ

又答りひけり。ヨルモハ水をもて「バブテスマ」とよんぢらに
あつてあくべ、ヨリヨリより能力あつてのまゝらん。已きふそめ
履帶ととくじりたゞむ。うれい聖靈と火をりて「バブテスマ」とよん
ぢらよあつてあん手よを箕をりちてその禾場をま
め麥ハあつめてその藏よいき。殼ハきこなす。火にてやく
アバハネまゝ多端をもてあくめをる。福音を民よ
のべつてたゞ十九さて分封君あるヘロデその兄弟ヒリボの
妻ヘロデヤの事あよび行とつろのまつての悪心ことと
ヨハネよいきめられけまび二十あわゆ惡事をくもヘヨハネ
を獄よりれど三民みみハ「バブテスマ」をうけるに耶穌もま
る

「バブテスマ」をうけていわれよとき。天ひらけ三聖靈鶴のよき
状ヨリてそのうよくさりぬすく天より聲あり云よんぢ
ヨシ愛子ヨリ喜悦とくろめのりのる。○三時に耶穌と
約そ三十よそく福音を宣モむ。ひとくよヨセフの子とあ
るをひそめり。ヨセフの父ヘリ西そつ父ハマツタテその父ハ
レビその父ハメルキその父ハヤンナその父ハヨセフ五そつ父ハ
マタテヤその父ハアモスその父ハナオムその父ハヨセフその父ハ
ナムカイ六その父ハマアツその父ハマタテヤその父ハセイその父ハ
ヨセフその父ハユダモの父ハヨハンナその父ハネリ七その父ハゼル
ハベルその父ハサラタエルその父ハメルキその

父ハアツデ|その父ハコサム|その父ハエルマダム|その父ハエル
元|その父ハヨセ|その父ハエリエセル|その父ハヨホレム|その父
ハマツタテ|その父ハレビ^{ミト}|その父ハシメオシ|その父ハユダ|その
父ハヨセフ|その父ハヨナシス|その父ハエリアキ^ミ|その父ハメレア
その父ハマイナ^ミ|その父ハマタツタ|その父ハナタシ|その父ハ
ダビデ^{ミニ}|その父ハエツサイ|その父ハオベテ|その父ハボアス|その
父ハサルモン|その父ハナアソン^ミ|その父ハアミナタブ|その父ハアラム|そ
の父ハエスロン|その父ハバレス|その父ハユダ^ミ|その父ハヤコ^ミ|その父
ハイサク|その父ハアブラハム|その父ハテラ|その父ハナコル^ミ|その父
ハサルク|その父ハラガウ|その父ハパレク|その父ハペル|その父ハサテ

三六|その父ハカイナシ|その父ハアバザデ|その父ハセム|その父ハノア
その父ハラメク^ミ|その父ハマトサラ|その父ハマノク|その父ハヤード
その父ハマレヒエル|その父ハカイナシ|その父ハエノス|その父ハセツ
その父ハアダム|アタムヘモアモモチ神の子あり

第三四章|さて耶穌せひきのよみぐさをもてヨルダンよりく。
靈^{ミコト}又みちびくれ野^{アカハタ}よゆきそ^ニ四十日 悪魔^{アカハタ}よこうろみくら。
この諸日 あよきもくらむを四十日^{アカハタ}をもりてのち餓^{アカハタ}さ
り^ミ悪魔^{アカハタ}うわよりひけく。あんちり^ミ 神のこあらうを
この石^{アカハタ}命^{アカハタ}と餅^{アカハタ}とあらせず^四耶穌^{アカハタ}こうくりくへ餅^{アカハタ}
のままで生るゆのよあらうを。こゝ神のまくらの言^{アカハタ}よ

よると 錄されり 五 悪魔まゝうれをこゝき山よつまゆ
き。一瞬間よ天下の萬國をあめへて六ひけふ。のみま
るの權威と榮華をあんぢよあくさん。これられをまゝさ
れうれをまゝ所欲りのようれをあくふべ。ヒ ゆゑよ
り まゝまゝ拜跪ひきよもとぐくあんぢの屬とあくさんハ
耶蘇イエスこゝけふ。サタシよこづらうろよあうぞれ。たゞ
主キリストあんぢの神カミよひきよ。あれるものとてよ
あくされうり 九 悪魔まゝ耶蘇イエスをエルサレムよつれゆ
聖殿のりよきよとてひけふ。あんぢより 神の子
あくばらうよ。あのち身をうげよ。そひ神の使者よ

ちに命いのちとあんぢをまづらせん十 あんぢが足の石いはよ
ぎる。やううきうち手てをうきよ。とあくする十一 耶蘇イエスよ
つけう。主キリストあんぢの神カミをうこうむづらすとといひ
ありう 十三 惡魔アハの誘試アムカツシをあきらめアキラメてあをづくうきを
もあきらり 十四 耶蘇イエスせのきの能のうをもてガリラヤようう
しよその聲名ヨウモンあきらめくまちうの地ちよひうがまぬ十五
のくそうれらヶ會堂カミダラよとをきへをうし衆人マジンよなまれ
をえうり 十六 その長育チトセよとくうあるナザレよきう。耶蘇イエス
常例のごとく 安息日アンソクヒよ會堂カミダラよひうて聖書セイブをよまんとそ
うちけれど十七 預言者ウエイゲンザイイサヤの書カニヤをあくへよ。耶蘇イエス

その書をひらきて、うく録れるとこうと見ひだす
主の靈さきよいまま。ゆゑよ貧りの福音をつ
んことをつらはる膏をそぞぎて任ト。心の傷るものを
醫。また囚入するさんじく醫者も見させんこと
をあめ。また壓制らしりゆをもあち十九主の禧年
を宣ひうめんがためよ引きをつらせり耶穌書をまき。
その役者もあくべ坐りけまび會堂もあつりの
みみ目とともて視みせり耶穌うきらりひけふ。この
録されうるうらへ今日あんぢらのまくよ應驗り三衆れ
と稱讚その口よりひづるとうの恩恵のこととある

／＼ひけふ。らふヨセフの子にあらばや三耶穌うき
りよひけふ。あんぢらうかうをつらはる諱をひきて。醫者
みづからをひかせ。ヨモギうきとこうれカベナウムみて
行こうと自己の家郷あるこの土にもよもぐると
いふ又ひけふ。あれまであんぢらにつげん。
預言者そのふとよその敬重うりゆあらむ五正れ
まこととりそあんぢらにつげん。エリヤのとき三年と六
ヶ月天と地を徧地あるいふ。饑饉あり。その時イス
ラエルのうちもあらゐ難あり。二十六エリヤハその
一人へとつうちを只シドンあるサレパタのひづりの

癢さりよつともされたり。また預言者エリヤのときよイスラエルのうちうちはあらゆる癪者さやうしゃあり。うどそのひとりども潔きよられま。またスリヤのナーマンのときよめられたり。元會堂くわどうもあり。そのこれとまことにあらゆり。元起て耶穌イエスを邑まちのそとにいざ。あげあとまんとそその邑のうちうちる山やまのうけよまでひきゆけり。またあるた耶穌イエスわれらの中なかととなりてさりぬ三ガリラヤのカペナウムといふるまちまちりて安息日あんきじとて衆しゆをうへて三そのとを權威けんろありければひとくそめをうとうけり。○三會堂くわどう又汚けがれる鬼おにの靈れいとうつれる人ひとあり。あわざあさみ

びりひり三あナザレの耶穌イエスよ立たてまくるんまくるんとそんの與よあらんや。そんぢききうてこれらをあらがまう。ヨハネヨハネあんぢれんぢ誰だれをし。まろももまろもも神神の聖せいるりのうう耶穌イエスこれを責せてひりひり。聲こゑをひどきとすれ。そとを出だよ。惡鬼あくつひよその人ひとをひどぐのみにだす。傷きずをし。ひづ衆しゆふわあらうきだぐひよかうりひけ。權威けんわいと能の力をりちつけれ。鬼おによ命めいぜぐを出ださき。是れりふる道みち。モーセモーセ耶エ稣イエスのきこひ偏へんのまもまもうの地ぢよひろひろう。耶エ稣イエス會堂くわどうをし。シモンシモンの家いえよいりしにシモンシモンの妻母まごしよりあり。熱病ねつびやくをひぐらひゆく。ひどぐこれこれがあ

又耶穌又ねがひけり。そのかくもらにこもて熱をせめ
て熱ありそむ。婦をちよ起てかれうに供事す
四日のひとまさよぐの病を引うちひだるゆのをゆる
人々みふそれを耶穌よつきまつりけれど。人々そのうん
手をあきそひやせり。四悪鬼もまくあるゆの人々をりそ
さうさけびて。みんな神の子キリストありといへ。ち
るにらきを斥てりのゆふことをゆくまつま。惡鬼その
キリストふらをあれども。四あくるあき耶穌りそ人ふま
とうるゆきけきを。衆うづねきうてその離去ことを
ゆふむ。四三耶穌ひけり。それまくわうのむくつす

神の國の福音をのべてござると得ぞ。そひこまくられか
めよ奉使ゑきぐる。四三そガリラヤの諸會堂よて道を
のべてく

第五章

ひとく神のこどもをきくんとも擠擁けり。耶穌
ゲネサレの湖のほとりにこちく二艘のふねあつて
見る。漁のりの船をもあれ。網をあひきり。その
一艘もシモンの舟。アリケ耶穌うれにのり。請て岸う
ろぐむ。坐して舟中よりひとく代をふ。四
教をもり。シモンうそけ。師よこれら終夜もくつとく

所得ありき。さきどさんぢの言ふあらびて網をあらき
ん大既既よあらレ魚を圍アラメとアラメあるとアラメある。網アラメを
タリけりもアラメりよアラメ一艘アラメある。うねの侶アラメをまねアラメ。來アラメだを
けしめしよ。のまうりまうりとアラメ。そのうを二艘アラメのうね
物アラメてあらまんアラメ。ハシモンペテロこれアラメとアラメ耶蘇
の足下アラメ。ヤマト。主アラメよこれアラメ離アラメ。ヨシムアラメ罪人アラメ。アリと
いづり九アラメシモンアラメ。アリび偕アラメ。アリシモアラメの侶アラメ。ゼベダイ
とアラメの魚アラメの夥アラメにあどうける。アリシモンアラメの侶アラメ。ゼベダイ
の子アラメヤコブとヨハネアラメもまた然アラメ。耶蘇アラメシモンアラメ。アリひけり。
あそくあそれあんちりまよアラメ人アラメを獲アラメ。士アラメクモウアラメ舟アラメ

を岸アラメによせあき一切アラメをまく。耶蘇アラメもあらう。○十二耶蘇アラメ
ある邑アラメをうーとき身アラメとく。癱病アラメをやめつゆのあり。
耶蘇アラメをみてひきこアラメねがひひけり。主アラメ聖旨アラメ。アラメ
ときく。これアラメきよく。得アラメ。耶蘇アラメ手アラメのべられ。アラメ
て。つぶこうにあらう。潔アラメるれとひひけり。たゞちよ癱病アラメ
いづり。耶蘇アラメ。アラメを戒アラメて。ひひけり。人アラメよつくることある
き。アラメてあられアラメ祭司アラメにみせ。うきよめられ。アラメ
よモーセアラメ命アラメ。アラメと獻物アラメをあら。證據アラメをうきこりに
せよ。十五されども耶蘇アラメの聲名アラメ。ひろぐらん群衆アラメある
ひの教アラメをきく。あらひの病アラメをひきこりんとアラメあらま。

まりきれり ^{十六} 耶穌 つねよ人あきとこうにありまき
て祈禱 ^{いのり} たまひき。○あるひ耶穌 ^{イエス} とくをあせるとき。パ
サイのひとく教法師ガリラヤの諸郷ユダヤエルサレムより
きこうてうに坐し。のきの病をいやまべき主の能
あらもれより大あるひと癱瘋 ^{ハラフウ} をやこうすのと牀 ^{カウ} のせて
くききこう。これを家よいき耶穌のまへよあんとありて
も ^{十九} 群集まで昇りべきたあくしけきば屋上 ^{ヤハネ} のうり
瓦をとりのりて。その人をねどひのまゝ衆人のまへ縋あ
ろ。耶穌のまへよあけり ^キ 耶穌の信あくとみてやまひ
のゆのよ。人よあんぢの罪ゆるさるとひければ三學者と

パリサイのひとく心よありひりぐりえ。この裏瀆 ^{ハゲハ} こと
いふりのへ誰そ。神よりあくまされう罪をゆきとことと得
ん ^三 耶穌。そのありひとありて答ひひけり。ふよとあんぢ
らこうのうち論 ^{スル} あく ^三 あんぢの罪ゆきとひ
と起てあゆめといひとひづきやまき。それ人の子地よ
罪をゆくまの權威あることをあんぢんあらせんとそ。つ
ひよ癱瘋 ^{ハラフウ} の人よ。これあんぢつぐ。起てねどひとどう家
よくきとひしけき。五そのひと衆のまへよとくちに
あきて卧み。衆みあわざろきて神をあがめうるあるいよ
くうぬ ^{二六} 衆みあわざろきて神をあがめうるあるいよ

畏懼あえれ

ていひけふ。されど今日ふゝさみことを見つ

ふ。○テうち耶穌イエスのレビといつて稅吏の稅閑カイに坐つてゐけ

るをみ。されよあくびとひひきまへハレビ一切をもてあき
起てあくびハルレビあのかれ家ヤクそ耶穌イエスのたゞ豊盛
あり筵カネとまうけしよ。稅吏また他のひとぐもともと筵カネ
坐あたりのあらうけきびハシそのところの學者ゲンヤとパリ
サイのひと耶穌イエスの門徒ドウトにつぶやきいひけふ。あんぢうみ
つきとり並つてひひけふ。康強カクキョウあらゆる醫者イヒヤのたま
ぞ三耶穌サンイエスこゝへてひひけふ。病ヤマあきりのこれとりともハシ我ガき
けをりとめを。こゝ病ヤマあきりのこれとりともハシ我ガき

人とまねくあめをハシあらば。こゝ罪ハシある人ハシを悔改ハシさんハシ
ためあうハシ三サンくまうハシ耶穌イエスよりひひけふ。ヨハネの徒ドウがあも
禁食ハシまゝ祈禱ハシをあそ。パリサイのでハシのまゝ然ハシ。あら
にあんぢの門徒ドウのむことくらふことをあき。何ゆゑぞ
西ハシ耶穌イエスひひけふ。新郎ハシの友ハシあらわすひと一處ハシにあら
うらんこれえ禁食ハシまゝむ。ことを得ハシハシのち新郎ハシ
とひひけふ。その日ハシひえんハシときもがまきハシ三サン誓ハシ
をりそひひけふ。新衣ハシをきうとうて舊衣ハシをつゝかゆの
あらドハシあらせを。新衣ハシもそくあひくつあら
きよりとく。布ハシあらきりのとあるをハシ又ハシあらきり

酒さけをうき草袋くさぶくろよりのあらす。りーあらせば。ある
らき酒さけそのふくろを裂さるれりびと且まうもふくろを
そらふくろえあらしき酒さけあらしき酒さけあらしき酒さけ
りびとを。かこそこそ兩ふたふくろ存あまきえあまき酒さけ
をのみ立たつ刻ときよりと好すりむあり

第六章 逾越節おこひなの二日ふたのうちうちのあんそくにに耶い稣ス
むぎのちちととほりほり。そのでで麥むぎの穂いもをつみ
うれを手てとりみくらひひ。あるパリサイの人ひとから
ににひけひけ。るんぢぢ安息日あんそくじよもよよもよききここをまま

何なゆきぞ三耶い稣スここそそりりひひ。ダビデダビデあよび從従従あり
しゆのの饑うーととききああららことことををいいまま讀だざざうう
まあもも神神の殿殿よりよ。小こ祭司祭司のああららくらくらかかままき
供まりりのの餅餅ををとりとくくひひ且とめめににあありりののももあ
ててそそりり五五ままくくひひ。人の子のこの安息日あんそくじよも主おそそくくああり
○六六ままくくりりひひ。ああんそくそくににちちよ耶い稣ス會堂かいどうよよりりそそくくふ
ここよよ右うの手手ああくくる人ひとありけままちち學がく者しゃととパラリリサイサイの
りり。耶い稣スううれれを安息日あんそくじよよりりききるる。そそれ
れれをううそそんんととありへるる。耶い稣スそのそううををああそ
手てああくくるる人ひと又また中なかににううよよといいひひききががそそののひひ

起てからり耶穌ひりりと。これるんぢらにとまん。安息日
よ善をすまこと惡をすまこと。まく生とすまこと殺とりされ
きるふまふまつひよひよぐをみまもと。そのへよ手とのぐよ
とひひけきが。うきそひじとくせよ。手もすまも愈てす
の手のざくくまきり土くまきりあかひよ怒てひよ耶穌をみさ
んとこうひようすうあへう。そのうう耶穌ひづりのこめ
よ山よゆきとすまきり神よいのきり士夜あけて耶穌
とみづく十四即ちペテロとみづけたまひシモンお兄弟ヨハネピリボとパルトロマイマタイ
アンデレ。あまびヤコブとヨハネ。マタイ

とトーマアルハイの子あるヤコブとゼロデヒリルシモニ
十六ヤコブの兄弟のユダとイスカリオテのユダあり。この
ユダを耶穌とすまわるのあり十七耶穌こうきくと
ともにくさりとたひくうある地キスよこもしに。あらうの門徒
とあひくとひくとひく。エダヤの四方まさエルサレムあまび
ツロシドンの海邊カシマよりきうりあまりて或ひそひ教とま
くんとう。あらひの病をいやされんことをねくタマまく
悪鬼アキよみやまされうるのあり。こうぐくひやされうり
十九衆みる耶穌ヨハネよさまくらんとせう。これ能力のそひ身タマ
ひやくとこうぐく醫イハせだまう。二十耶穌ヨハネ目タマとあ

げ門徒だをみてひけく。あんぢら貧者ひきのまひるをひく。
神の國くにへまよもちあんぢらのゆのよまぐふうニあんぢ
りま饑うるりのひきひふう。飽あらふことを得うべきがゆ。
あんぢりのま哭きりのひきひふう。こらふことをうぐ
けきばあうニ人の子れため人あんぢらにくみ。まよ
とあきけ署の。あんぢりの名ふを悪あくとてまよあぶあんぢ
福ふあり三その日ひよろづびあどれ。あんぢり天てんよあ
て賞賜じゅあらのさればあり。その祖はヶ預言者げんじやよあ一だ
あよくの二す三あんぢり富とのひきひあたくな。
まよ安樂まよとうくれ二す三あんぢり飽ありのひきひ

あよくの饑うんとまればあり。あんぢら今いまふりのひき
ちひよくあ衰な。あんとまればあり二す三あくまのんあんぢら
とあめあ。あんぢらつまむひあくま。その祖はヶいわち
の預言者げんじやよあ一だ二す三それよ聽きとくろ
のあんぢりよつげん。その仇かと愛い。あんぢらにくも
りのと善よ。六ロ詛のりのと祝わ。虐遇ありの一ためよ祈禱きとうせ
よ元へあんぢの煩うの右方うを二す三ぞまく左方ひを一わ
よ。あんぢの外服うと二す三あきとも禁まざれ。まよそあん
ちよ求さべられ二す三あくえ。あんぢの物ものと二す三そきとまよ
索さる。あくれ二す三あの人ひとよせよまんとまよ二す三まんとまよ

そのごとくせよ。あれを愛するのをあらまつてあるの
賞賜あらんや。悪人にてもあらきを愛するのりあひる
るあり。三、あれは善をあらむのよ善とあらむるのみ
むくはあらんや。悪人もまたのことに行ふる。あらんぢ
ら償ることを得んとあら人を借へるものむくあら
んや。悪人もそのごとく償をあらんとてまた悪人えうを
あり。五、あんぢり仇を愛し。また善をあら何をものぞま
む。そ借あらつよ。さうぞその賞賜へあらひあり。う
至上者の子とあらん。それ至上りの恩をうけむるもの
あすび不善者よまで慈愛をあらどけむをあら。六、めゆゑ

あらんぢりの父のあられみのごとくまた憐憫をあら
一、人を議うとあられ。さうばあんぢりもあらります。人と
つみあらうからあられ。さうぢりをあんぢりの罪せられ。おびと
をゆうせ。さらばあんぢりゆうべ。六、人よあらつよ。
さうぢりあんぢりも予らうべ。うきぢり量とあらうべ
いき撼りきあがるまでにそろんぢりの懷よいきん
あんぢりをうちとそのそな量とあら人よあらうべ
一〇、元まゝ譬をうきぢりよひける。譬へゆくひよて
ひきをあら得るやあひとより溝壑クモリをあらひりざん
や翠サザンのそな師よまくす。あらすそ全備するもの

その師のぞとくある。四三 あんぢ兄弟の目はあらちうをみ
ありきの目めはある。梁木うきをあらざるあんぢや。四四 いとてある
れの目めはあらうへぢりをみまじて兄弟ふむひ。兄弟よ
さんぢの目めはある物屑ものすをこれよとくせよといふことを得
んや。偽善者ぎぜんしゃよまうあらきの目めより梁木うきをとれ。さうを
兄弟の目めはあらちりをとることあきらかにみゆべ。四五 それ
悪果あくごをむきよぐ。善樹ぜんじゆにあらむ。まよきみを結むすへあらき
樹きもあらむ。四六 あらわの樹きの果くだはあらむ。荆棘きのう
無花果むけいごをとくを。まよく蒺藜いのう。葡萄ぶどうをとく。四七 善人よしこ
らうのまきくらむ。善よしをひそむ。悪人あくじんのそひの悪庫あくくらす

まことに。その心よみうるより口よりもくすり。あんち
らあがひかことをあくあくもぎて何ぞされと主よ主よと
とうかぬ。まごとされよ就きがうとむをきて行きのと
だうそろんぢりよしめさん。その人の家をうるた土を
あくわりてやはずを磐上いはうにありふこと。洪水のとき
横流よこなれそのつと衝うちともうづきひとあくを。これ基礎イシキ
といひのうよあけばかり。聞きてあくあくざるなりのひり
きくあく家と土のうよたゞくる人のごとく。あぐきうれを
ううときのそのつとうちよこられ。その頽壞ヨガハまよもよを

ヨハネ福音書 第七章 耶穌のまことの言を民に語りてカペナウム
 エリザベス ある百夫の長その愛する僕やみてしめをう
 ありけきべ 耶穌のことときをみてユダヤの長老どりとつる
 しと。きくらう僕をうまたけたまんことをねぐらう。われら
 耶穌も就きまうにまくめひけふ。このことを求るひと
 へよきひくらう 五万民を愛してこまくらのあはれ 會堂
 を建くらう 耶穌うきまうととひよゆきとりもとくの家
 ちうづく。とき百夫のうきら友どうもつづきてひを
 ける。主ようがくらを勞動してあられ。くる家裏よりれ
 まうらへあそれあらへ 故えよきあんぢの前よしぐる

まくあそれあり。まく一言とひだりまくあらへ
 へ愈んへそんされ人の權威のあくと屬るゆのうよまう
 下よまく兵卒ありてこれゆゆけとりともゆき。われよま
 れとりともきる。よが僕よこれとあせとりともまくそ
 ち行ケゆゑる九 耶穌まくをこれを奇ちうぐる人々と
 くらみそりひけふ。われあんぢらにつげん。イストラエルの
 中にもりゆかる篤信もあもひきつてもされる
 もの家よくとて病くらへ 僕とみきもとをとよ全快と
 あせり○ 翌日 耶穌ナインとひる邑よゆきけふ。あ
 くの門徒あよび群衆もどりにゆけり 十二邑の門よちうづき

一とま。昇りて死人あり。その母マタニに斂マツルてこんひと
りの子マリ。邑マチのひとマジがあらへられよとマジるふ主ミハシやも
めマジとみマジ。あそれマジ。哭マジすれといひマジてサカナちより。その概マジ
手マジとつけられマジ。昇りのともとマジますれ。耶マジスイエスりひけマジ。
少者マジよこれあんぢマジり。死マジだよりマジの起マジてう
りのいひそひ。耶マジスイエスこれとその母マジとせりマジひとマジ
みマジあそれマジ神マジとあざめいひけマジ。大マジきマジ預言者マジされ
らマジあうちマジ興マジる。神マジその民マジとマジたマジヤマジりマジ耶マジスイエスの
このきこマジユダヤマジの國中マジあすねくマジ四方マジひろマジり
ぬマジ。ヨハネマジの門徒マジをこまうマジのことを彼マジつマジけマジ

きを十九ヨハネマジ二人マジのでマジとよびマジりひづマジりけマジ。來マジるべマジりのマジあんマジあマジ。まマジこまマジら他マジよマジづき
ウキマジのあマジりマジ耶マジスイエスえきマジりマジひけマジ。パテスママジのヨハネ
エマジきマジらとマジんマジつマジりマジむ。まマジくマジべきマジのま
うんマジうマジきマジれら他マジよマジづきマジ。こマジのときマジ耶マジスイエス
あマジくマジの病マジあマジしマジるマジ。あマジいマジるマジ。あマジいマジるマジ。あマジいマジるマジ。耶マジスイエス
とう三耶マジスイエスかれらよマジえりマジけマジ。あマジいマジるマジ。あマジいマジるマジ。あマジいマジるマジ。見マジ
とマジうマジ聞マジとマジうマジあマジ。癪マジ者マジへきマジ。聾ス不マジ者マジへきマジ。

死

一 りのへりまくされ。まぐさきもの福音ときうせる
三

あわうをわがためよつまぐさるりのんきのもひうり
ヨハネの使者きりのち。耶穌ヨハネのこととひとぐに
りひけり。何とみんとそ野よいでしや。風ようごうまる
革あるも^{二五}きらぶるんぢらうとみんとそりでしや。
すもくうきこうもときくる人あるも。文繡ときてあざれ
りのハ王の宮^{二六}あく^{二七}きらうをあじとみんとそ出^{二八}しや。
預言者あるも。然これるんぢらにつげん。これ預言者よ
りももぐれうりのう^{二九}それるんぢよききだちと
道とそろはる。アガ使者とるんぢのまくあくらんと録^{三十}

されうるもあをもこれなり^{二八}それるんぢよつげん
婦のうめりゆのうもよりまど^{二九}ババテスマのヨハネより
あるのる預言者^{三十}ハる。さまと神の國のちひききの
もえきよりひ大なるあり^{二九}ヨハネよきひ。庶民^{三一}税吏
ハその「ババテスマ」とうけて神と義とせり^{三二}バリサイの人ま
教法師をその「ババテスマ」をうけた。みづから暴^{三三}て神の旨に
そむきだり^{三四}さきばらうの世代のひとぐをあふるあまく
まく何よ^{三五}とくんや^{三六}そらべ市^{三七}よ坐^{三八}したがひよよびとぞ。され
ら笛^{三九}ふけどもるんぢらあどりき。悲歌とまれどもるんぢ
ら哭^{四十}をとひよみくり^{三五}そく「ババテスマ」のヨハネきたりて餅を

もくとをも酒をものまぎれバ惡鬼あくぎよりうちれたるりのあ
りとあんぢらりへり三入さんじゆの子きうてくらふこもくさん飲お
とをまればまゝ食くまさうみ酒さけをこよむ人ひとみくぎどり
罪人みゑにの友ともありとあんぢらりへり三五さんごされど智慧ちゑはちゑの子
又義ぎとせらるる。あるパリサイのひと耶穌イエスを請まねきてともに食く
せんこせんをねがひけき。耶穌イエスパリサイの人の家いえよりそ
食くつけり邑まちのうちに惡行あくぎをあせ。婦めありけりが
耶穌イエス。パリサイのひとの家いえ坐すわままをありて臘石はりせきの盒ご
みみひあぐりをりちき。六ろく耶穌イエスのうこう立たつあしも
とに哭かき涙なみだ。そそのああをううかか首くびの髪かみをかれてこれを

めうひ。うその足々口をつけ。まゝ香膏をこれにぬまう
耶穌とまぬまくる。パリサイのひとこれを見心のうち
ゆひけふ。この人ヤ一預言者あらばさうりのそ
誰ある。すこひかる。婦あるをあらん。のせんを悪行
をあせらゆのあり。耶穌されようこそひけふ。シモン
されさんぢよふことあり。こゝへけふ。師よひひたまへ
耶穌ゆひけふ。ある債主ようちの負債人ありて。ひとう
金五百ひとう。五十をうり。三償のとあるうけまが。の
ぬくふ二人をあらへ。ときも。二人のうのそつて
ぬくふと愛あることひづきあはき。我よきうせよ。三シモン

こゝへけり。されありかにゆきよることのあらきものあん。
耶蘇イエスひけり。あんちヶあふとうへびをさるる。つま
婦イエスをくり見てシモシヨひけり。このをんすをみる。され
あんぢの家イエス入る。あんちアンドリヤ足アキ水ミズをあくへき。一のをんす
疾アリそろがあ。もうやうらの髪アラシそりそぬぐり。五の
ちアキ口アキをつけて。また。二のをんすにへりときより。か
足アキ口アキをつけて。三のをんすが首アカあごをぬる。こ
のをんすが。あくに香膏アロマをぬる。四のをんすが。首アカ
りそん。二のをんすのあくの罪アダムへゆきされ。これよよて。その
愛アハもまく。あやきあり。赦アムさうること。まくあきめり。その愛アハ

まくまく。於是。そのをんすひけり。あんちの罪アダム
やうくら四九とりに坐する。心のうちよりひけり。どめ
人ヒトへ。あれ何人アキ。あきが罪アダムを。やうそく。五耶蘇イエス。あんすにひけ
り。あんぢの信アキ。あんちアンドリヤ。安然アキタ。そくゆけ
福音ヤル。こゝのうち耶蘇イエス。諸邑マトギ。諸村マトギ。と。あく。神カミのくよの
まく前アキ。悪鬼アキ。されひく。十二の門徒アキ。も。あく。ひぬニ
ふどり。あく。ひく。まく。あく。七の悪鬼アキ。を。あひ。ひく。ま
くる。マグダラマグダラ。と。マリアマリア。まく。ヘロアヘロアの家。宰アサフ。クザクザの妻
ヨハシナヨハシナ。まく。スザンナスザンナ。こゝのあく。あく。婦アキ。ありて。みある。の

所有をもて耶穌よつて來りき。あらゆるひとり諸邑
よりいぢり耶穌のりとにあつまうけきべ。譬をひてひづ
五種まゝのうねをまんとてひぐぬ。播るとき路旁にあ
ちく種あり。みつれきうちそぞの鳥こゑをくら
ひ六種石上まきあちくだねあり。ちどりを擣うす。
これ潤みずあまかゆゑあらじま。棘のふくよあもし種あり。
ひをくもとくにそざむとこれさ散まきりハまく沃壌まろよおち
一たすあり。生なまりて實じつをむきぐこと百倍せり。是を
ソリモモリてすまうけり。耳ありてきくゆきのハキ
アガの門徒かどひひけり。これゆゑだくだくぞよ

アケル。神のくらの奥義かをさんぢらよし知しくをたまへ
ど。他のものよもよもをりてま。こく視みてもみ鳴なを聽
てもさとめざるたああう士しそれあめくとくの釋ほくくの
神の道みち士しみものやくく又あちくくのききのち悪魔あくま
のあめよそのくらより道みちとくくのあくくのあくく人の
信しんじともとをもんことを恐るおそいものうくよあちくく
きくとくよろらひそらともとをうくくれども根ね玉たまを道みちを
信しんすることあもくのみ。うきよひよあくくきを道みちを
むくくのあくく古いわうききのあくくあちくくきて往むかうの
世の諸慮よろづとたまらと宴樂えんらくとくあらわれてみのうざる

のあり十五 よきもあらへ正う善ううよてことを
をきく。これをまわり忍て實をむまぐりのあり。○十六 燈を
とり器みてこれをおろひ。あひも床下とこもあくすの
事。へきてるゆの光をみんためよ臺だいのうくよお
くべ十七 隠かくてあらぢれざるもの多く。藏くわてあらきよくわをあ
らぢれりぞきりのあり。十八 もやゑふんぢら聽きこと
をつゝめ。有者うしものもあはあへらき。無有者むしものハハちたたともあ
もくとくのりくもとくらべ十九 うのとき耶穌いとおの
母おやぢと兄弟きりきりけきど群集ぐんじゆよりてちうへくことあら、
ぎりく二十 あひとられを耶穌いとお又づげそりひけくへん

ぢが母と兄弟さんぢよあそんとて外ふうそり二耶蘇こうへ
てひひけふ。神のことをきくとこれを行ひのをもあそ
ちぢが母さん兄弟さんある日耶蘇でアマリ小舟は
のりて。うきらに湖のむろへこもぐとひひけきを。ま
みうちこぎひどせり三かねのちくとさ耶蘇ひもぐ。
颶風みづうよあきあう舟は水みちんとて危う
いふ西門徒きもうて耶蘇をさすりひけふ。師よ止
めきを。止てあざやくさうぬ五耶蘇ひひけふ。さんぢ
の信ひづくはありや。わらあどうき且あゆふてまひ

ヨリヒケル。云々何人ナタシ。ウセとみづく命ぜ
ウセまくあくびく六うそそガリラヤニカダラ入
の地七つまくモナムにあぐりトき。ありひとり邑八い
で九耶穌十あふ。うみのちひきトく惡鬼十一トアキうれ。
衣十二をまき家十三モナマ。モ塚十四のミるアキ耶穌十五を見
て十六きりび。その前十七ひきアアヤ聲十八モナモアキりけり。
至高神の子十九耶穌二十モナモアキえんアキとアキの與アキえんアキや。えん
ちアキ求アキモアキもアキことアキれ元アキれ惡鬼アキに入アキ
りアキよとアキ耶穌アキが命アキトアキよアキりアキ。うきアキのアキりアキれ
うきアキとアキでアキひきアキ。鍵アキまく桎梏アキモアキモアキりアキ。

どりそきとうちくさき惡鬼アキのアキめ野アキとアキれぬ
耶穌アキうれアキ問アキてアキひけり。あんちアキ名アキのアキとアキり。こ
へけり。レキヨン。これあくアキの惡鬼アキの入アキうらアキゆゑう
三悪鬼アキ耶穌アキねがひけり。命アキトアキ底アキあきアキとアキうよアキ
む。あれアキにあくアキの家アキのむれ山アキ草アキくひアキう
しが。あれアキの家アキとアキゆゑアキとアキ求アキけアキ。こアキを
ゆアキせり。三悪鬼アキのアキ人アキようアキうらアキ。その群アキも
げアキくアキくアキ。山坡アキ湖アキあちアキてアキがアキ。そのアキ牧者アキ
どもそのありアキうらアキをアキにげアキ。かれアキ邑アキまアキわく
よつげアキ五衆アキのアキうらアキとアキ見アキとアキり。耶穌アキのアキ

とにきりきり。惡鬼のちあきへんきのと著てうる心
みて耶穌のあへりとよ坐もうとみをあそれあへり惡鬼
みてうれうへ人のまくもれときを見たるゆ。其
をうきらにつけねばミガダラ四方のあらゆひとく耶穌
みらをきらんことをねぐら。これあらゆあそれうがゆ
ゑあり。耶穌舟のうきぬえ惡鬼のちあれたる人
耶穌とさやくちらんことを求けよ。耶穌これをさうしめ
て三九家えうり神のさんぢよ行へあらうることを人よ
つげすといひけれど。遂えさうて耶穌のあれよろへ
まひ大なることを遍邑えつへたり。○耶穌うるまぢ

とき衆みあまちみてこれをすろびもぐふ。四三 やイロと
うる人あり。一ス會堂のつきす。年あらまを十二歳。多
ひとりの女妻あらて死ぬるをうりありひきを。きうり耶穌の
あらとよあらてふ家よきうりたまんことをねぐら。四四
耶穌のゆくとき衆られよあら。四三 婦あり十二年血漏を
わざうひ醫者のあらよその業をことごくつひやへけれど。
たまにもいやされ得えが四四 耶穌のううよきうりて。
そのううもの裾まきえさそりけきをたゞよ血ちのりぐることと
まゆ四五 耶穌いひけれど。ときよきうらわのうまくを。衆
のみふうとよさむれりわのあへりとひく。ベテロあよび借

にあるものどもひけく。師よりひぐるんぢよあひ
せまつ。我よきもりのふれをといひたまふう四耶蘇い
ひけく。それよきもりのあり。能力のひぐ身よりひぐを
あぶゆればあり。その婦みづからくせぬをあう。戰慄きて
りそまよあす。さそりゆゑとそのだちに愈ゆるとを
ひとぐのまくよつぐ四耶蘇いひけく。女よ心やまくれるんぢ
の信あんぢとまく。安然としてゆけ四九のくりとまく
會堂のつまみ家より入まく。宰よひひけく。るんぢが
むもあも死焉たり師をうづらをもあれ五耶蘇されとき
そそくそつまよりひけく。あそくする。たゞ信せよむを

めひりゆく五耶蘇家よりよペテロヤコブヨハネあよひむを
めの父母のうちだれよもとひにへことをゆくまき五衆
みみ女のうめよあきのあくしう。耶蘇いひけく。哭ふ
うれ死だく。あらむ寝て五うれらその死だるを志
きをこれとづく五耶蘇ひとぐをみふひくとむもあ
の手とく。むまめ起よとよびひけく五その魂うりて
うちうちあきうる。耶蘇命じて食をあく。うそ父母
へあどうきぬ。耶蘇この行くをへよつぐこうをしまし
めたり

病をいやむを能力と權威をもぐりまく神の國をてく
病者をいやせんうめよ^ニきうちを遣さんとひひり。
へ路資^{あらまき}ふるよをうとううぎれ。杖まくだびくろ。くひりの金
えううの衣^きともももうとふうれ^ロづれの家^{いえ}よりとものそと
にともまくとまくそとようされ^五さんぢらを不接^{ふげき}りのあら
ば。その邑^{まち}とひぐときうれら^ス證^{あかし}のあめ足^{あしき}より塵^{じん}をまく
六門徒^{むかし}とあまねく諸郷^{りゆう}よゆき福音^{ホンビン}をつゝ。うやまひと
ひゆせう〇^セひりわちの君^{きみ}ヘロデ耶穌^{イエス}のふせ^一諸事^{まこと}ときて
まどく。ある人^{ひと}へこれとヨハネの復活^{ふくかつ}きるありとひひあり
ひと^{タメ}エリアの現^{あらわ}す。ありとひひまくあるひとへひまく

の預言者^{よへいしゃ}の一人すみうれむううとソノ^ナ九〇ハロデひ
けう。これヨハネの首^{くび}をきれり。如是^{こうぜ}ことのき^シくらうの
ハ誰^なある。ハロデこれと云ふとあ^ハ〇十使徒^{しと}うちの
りきう^シそその所行^{こう}を耶穌^{イエス}よ^フ。耶穌^{イエス}うきら
をとりうひて潛^かみベツサイダとひく。邑^{まち}のうくろある野^の
あくぞ^シに土ひとぐありそ隨^{たが}けねぞ。これを接^{つゝ}て神^の
國^ののこときうう。うう醫^いをりともむりのをいやせり〇^{十一}日^ひ
こあくとま^キ十二ので^シきくうて耶穌^{イエス}よひひり。こう^シ野^の
うれば衆^{しゆ}人^{ひと}をさらせ。四圍^{よのまへ}のむらがとくゆま^ミ宿^{をと}
食^を見^むことさせ^ま。耶^ハ耶穌^{イエス}ひけく。さんぢら^れ

又食をあつてよ。こうへけり。それよりたゞ五の餅と二のうと
ある。のこらのあらくの人のためよせきを買ふあくまされを
あらに食物へあーホこしたさう。男あはよそ五千人あらき。
耶穌イエスひどくを五十人づゝあべ坐せしめよ。
吉門徒そのごとくあべられらをみ坐せめたり。夫
耶穌イエスひつての餅とあべのうをとり。天をあふき祝して
これをとり。門徒もあべてひどくのまよあへむ。皆
くもあきそ餘のくを十二の筐カタにひろひうち。耶穌ひど
のぎりぎりとき祈禱イエスあべしが門徒もとめにとまく。
耶穌イエスこれよとくそのひけり。衆もとまきをひいて誰とも

クキあべてひけり。バブテスマのヨハネあひハエリアあひ
へりすの預言者ヨウゲンザイのひどくのよまくわるるうとテ耶穌イエス
ひひけり。そんぢらはこれをひいてこれとまく。ペテロこ
そんけり。神のキリストありニ耶穌イエスくましをいまメて
このことを何人すもつぐ。あうれと命をマすまし
けり。人子のあらきをあらうのくみとうみて長老シラフ
祭司のとき學者ジヤウジヤウよまくわれ。うちこうをまき第三日よ
よまくわるマすまミ耶穌イエスひどくひけり。わー我アタマ
がそんとあひよりの己オトガようちく日々その十字架シラスガとあつて
それよあくまへてその生命をまつ、うせんとまつりのへこ

れをうへる。さがためよひのうをうへるふりのそれと
保全^{ほぜん}まへし^五入り^一全世界^{ぜんせかい}を利^りむとも自己^{じこ}とうへる
ひみづうちあらびき^二あんの益^えあらんや^三されとうづ道^{みち}
ちづりのを^四入子^{いりご}もまことうが榮光^{えいこう}と父^{ちち}と聖使^{せいし}のえい
くさうとりときたるときこれとちづべ^五これ誠^{まことに}よろん
ちらにつげん^六に立ち^七、うちた神^{じん}の國^{くに}をみるまで^八死^し
みきるゆのあり^九〇此^{一〇}ことといひりのち八日^八をもうりまきて
耶穌^{やす}ペテロ^{コハネヤコブ}とよりうひ祈禱^{きとう}せんとて山^{さん}のぞれ
り^一いのれ^二ときたにその顔^{おほ}のうちつねとくわうとそめ
衣服^{いふく}あらくうやまく^三うらうのへありとくまとのいへ。

キアモモーセとエリアあり。榮光^{えいこう}のうちよあらうきを
ニ^二耶穌^{やす}のエルサレム^{エルサレム}よりてりをや世^よとくさんとあることを^三
三ペテロ^{アサヒトヨヌア}りのどもりくねむりだり^四
グ^五あらでよさみて耶穌^{やす}の榮光^{えいこう}まともにうらう二人をみ
り^三ふのあらうの耶穌^{やす}とわくととき^四ペテロ^{ペテロ}耶穌^{やす}よりひけ
う^五うの師^シようにうらう善^{よし}。これらよ^六の廬^やとつらせたま
一^七へゆんぢのため^八モーセのため^九一^十エリアのため^{十一}せん。
ふの言^二とこうとあらざり^三う^四と^五と^六と^七と^八云^九と^十云^{十一}
あらねぬ^三聲^四くもうりひりふ。ふの愛^{あい}子^こあり。

これよきべー 聲やきみをみて 耶穌ひきをみる。門徒
うち口をうぢて見たり。と當時もこれよりつげざりき
○翌日 やまよりくまでけきば。わらくのひとが 耶穌をむ
ふそものうちのあり一人よぢつまといひけく。師よねがくへ
まか子を眷顧しまく。ふるびひどり子みに 悪鬼のため
とりづれても忽然さけび。泡をあきひきつけられて傷。あ
まくまとまとくのうす。されこれを逐ひてをこしをもん
ちの門徒よりとめへとあくとざりき。耶穌こうしていひ
けり。あく信ふきまがま世あるは。あれあんぢうのうち
えもんぢうと忍てゆきまわあんや。あんぢが子をこしよ

されましれ來まし惡鬼をたゞしてひきうちぬ。耶穌
りきさうる鬼をせめてその子とひき。父もあくたり 罪衆
みる神のあらゐる能をあざうき耶穌のるせうこゑあや
しめるとまに。耶穌ぞよりひけり。四四 云の言とあんぢら耳
えきめよ。それ人の子へひとの手えどもれん四五 クレシ
のことををさとひけり。悟さうやうくされましゆ。
クキラリもまくあそれで、ころのことをともきりき。○血六 門徒
ちの中だひひよられ、大あらんとのあくびひありけきを
耶穌そり心のありひをあうて。孩子をとりそをたゞく四八
うきさうひひけり。云が名のこめよ。のをさみじを接するもの

ひまをももむらにまきをうくふる。我をうくるりのひそれと
つましめりのをうくふる。まぐてるんぢらがうち最微
きのそられかといふらん四九ヨハネこゝそりひけり師よあ
んぢの名五ようて鬼かべをあひゆるのを見たまへがされ
りとどりとあくびをうるさゑうれを禁シテ平耶穌イエスひけり
へ。禁シテことあくられこれらに敵抗シテりのひつまくらに順從シテ
のあり〇五耶穌イエス天スカイのわの期ヒメいづりけどん。エルサレムユ
くらとくのシテきシテ五使者エシハたちをさまでつづけ
きを。うきらやキラヤ耶穌イエス預備ヨミズんケシテサマリア人のむろに
ゆうへ三郷人カントナそのエルサレムユむうひ行シテまうやカニよ耶穌イエス

を納シテざりき吾門徒タウトのヤコブヨハネらのことシテみてりひけり主キ
うきらエリアのあせシテごとく天スカイ火ヒをよびくまシテ。うき
らをほろがさんシテ。欲シテ五耶穌イエスうくらそシテこれを責シテりひ
けり。うんぢらの心シテうるうシテ自己シテあらざるシテ五シテひくの
子ヒツへのいのちシテ滅シテだめよきシテうらぎ。うとうきシテもくふくあ
る。遂シテはうのむシテにゆけシテ。五路シテをやくときあシテひと
耶穌イエスよりひけり。主ヨリづよゆきシテたまシテのとシテこれあシテご
んキ六耶穌イエスうれシテひひけり。狐キツネの穴アメニあシテそらの鳥トリを巣スあり。
さきシテども人子ヒツいまくらシテとシテうるシテ。五シテまシテある一人ヒツよひけ
る。よきシテあくらシテとシテうるシテ。主ヨリづゆきシテ父チをあシテむシテ

とをされゆるを 六十 耶穌イエス いひけり。死マリヤ のよそり死マリヤ
りのを葬ムカシ らせ。あんぢにゆきそ神の國をひろめよ 六十二 あ
ひくらひひけり。主よあんぢよあふん。まづゆきて家人よ
えられとづくことをゆくを 六三 耶穌イエス いひけり。手を犁ハサウエ よつ
けとくらうをうくらみるよりの神の國よくみをさうりの
る。

第十章

このうち主まことに七十人をこなしことを兩個づゝ已
くち。みづからいはんとくる諸邑諸地へとましんづくま
んとく。さきらよひひけり。収稼ハラタメ のあらく工人ヒト いまとく。
ゆゑよその稼主ハタチ はとくわのを収稼所ハラタマ あくらんこと

と求ハサフ べ。徒ツキ ひきさんぢうをつともまか。羔ラム を狼オカ のあくよい
きケ がど。四ヨロシム 囊カネ まく旅リョク がくろ履カツル きむり。うとみうれ。みち
よそ入リ よ問候モモカル す。あくよそそれ五ゴ 人の家アフ ゆりうをまづそめり
の平安アムゼン あらんことをねぐ。六ロク に安然アムゼン の子コノ あらざん
ぢうが祈ハシム あんぜん。その家アフ にとゞまく。若ちうらむがそ
のゆ。安然アムゼン あんぢうに歸カム べ。その家アフ とゞまく供ミム と
らうのゆ。かれを飲食ミム せよ。そんをこらくゆの。その工錢アムジン
をうくら宜マサニ あきがう。家アフ 家アフ とうることをせざれ。邑アムチ
りんよ接マツタケ るのあらばそのあんぢうの前マサニ そそくらうの
を食ミム せよ。九クシ 邑アムチ のうちある病カミ のゆのをいだせ。まく衆アツメ よ神ミ の

國もあんぢらにちうげりとしく + イ 邑 エ いらんに接る
りのそくふ衢エソウリハ土アレラムフミルアンヂグ邑
の塵ハスンぢラヌモウリトモラシム。されども神の國のち
づけタソレ上アレスンぢラヨツビン。その日ソドム
の刑罰ハコノ邑ヨリモサムはヤモクラミアム 犯
コラジンヨ。アムコラジンヒスルアベツサイダヨ。スンぢラのうち
ニムセー 異能トキツロトシドンヨムセー ムラセガレ
ヘモヤク麻をき灰をうむリ坐して悔改一あるべア 古審判
スルツロとシドンの刑罰ハスンぢラヨリモクルヤモクル
主キテ天ヌまであけられたカペナウムヨ。まゝ隕府ヌ

あくまうべ一十六 あんぢらよ聽りのへ正月とよきくあり。あんぢ
らと乗るゆのひこれとをうるすり。我とをうるゆのと正月
と遣たるゆのとをうるすり〇十七 七十人まろびうりとい
ひけり。主よ 悪鬼あき さへもあんぢの名み よよりて正月とらに服
せり。十八 耶穌イエス りひけり。され電でん のじとく サタンの天あそ よりあつ
と見み あ十九 されそんぢらに蛇蠍ヘビ とふみ。また敵てき のをぐすり權けん
とあきよる權威けん とをうけたり。うみうをそんぢと害が
ゆのうへ 千ちうれども 悪鬼あき のそんぢらよ服はせらふよろこひ
とをうことあうれ。そんぢらが名なの天あそ ゆあまうねーとうろこひ
とをうべ二十六とき 耶穌イエス こうよ ようらびそりひけり。天地てんち

主う父よこの道と智者と達者とよこへと赤子よあら
も一だまふことと謝を。父よ然それくのことを意旨
ゆきるるるり三父ハ萬物とされよあくふ。父のうちに子ハ
され多とあるゆの多く。また子あひ子のあともとと
うのゆのほに父ハこれるとあるゆのヨリ三耶蘇でレ
とくらみてひそにりひけ。うんぢらが見るとともに
ととみるその目ハきもひろい四正見とんぢらにつけん
ああくの預言者あよび王もあんぢらが見るとともに
みんとせくとも見を。あんぢらが聞とくのことをきえ
とせくうどもきらざりき○五ここに一個の教法師あり起て

あれとこうみりひけ。師よわれみとすまか永生と
くべきや六耶蘇りひけ。律法スあるされへ何ぞ。あんぢ
りうにすむモ答てりひけ。あんぢ心とつゝ精神とつ
くつかとつゝ意とつゝて主なるあんぢの神と愛を
べ。また己のごく隣とあるモペ六耶蘇りひけ。あん
ぢのこえ然。られとあらゆまを生べ二十九。られみとと罪
あきりのよせんと耶蘇スりひけ。又隣ともなれあ
る耶蘇こうそりひけ。ある人エルサレムよりヨリコ
くるとき強盜マアヘ。ぬまびとその衣服と剝とりそ
れとうちたきあぬまくにあへとさりぬ三のうと

にある祭司この路より下りてこれとみをぐにへて
ゆけり 三まくレビの人もこにゆけりをみて見てあるべ
をきゆけり 三三あるサマリアのひと旅にてここにきけり。こま
とみて憫 あらうりてあらうと酒とその傷よき。これとつ
みをあらうが驅馬のせ旅邸 えつまゆきそ人抱せり 五次日い
づるとき銀二枚とりまく 館人 あらうとらのひととひも
うせよ費 やまくらをされうりのときさんぢよ償じ
といけり 五六さまくらの三人のうちされうぬをびとまあ
一ゆき隣あらとんちありまく ましひけり。その人
とあまれみたるのあり。耶穌ひひけり。さんちも往て

そのごとくせよ ○ 六 クリマラ路をゆけりとき耶穌あらむに
ゆけりきをマルタといくる。婦こまきをむかえてみづくらの家
よりまぬ 三九その姉妹又マリアといくるりのあり。耶穌のあ
いりとよむちくりてその道をきけり。マルタ供給のこと
あらくして心ひりふれ。耶穌もちようていひけり。主
よヨハ姉妹こまきを一人のこもてもくらあむるとあよ
ともありとざう。のまよ命とぞこまきをよまけりあめよ。耶穌
こうしていひけり。マルタよマルタよさんち多端にす。ありひ
きりのひま。マリアもまよ善業をえみたり。こう

まより奪はらざるのあり

第十一章 耶穌イエスあるとソロみて祈禱イエスあけよをもりとす。

ひのくの門徒タラひけり。土トヨヨハネヨハネそのでシテよきへ
ひとくヒトクきらすもひのうらとをさへまニ耶穌イエスひ
けり。ひのうとまヒルひへ。天テンよまマまをつまきタマキか
父アバよ。ねネくク聖名セイメイをあらめさせシラセだまタマ。聖國セイコウをきたらせ
だまタマ。聖旨セイジの天テンよ成カム地チよもあらせシラセだまタマ。ヨモギの
みそミソあらぬ食エサを毎日エーデイよあくアカルだまタマ。罪ミタマとまきらはす
をむムをもぐムグせセをこれらコレラケ罪ミタマとゆるトヨルだまタマ。己ジ
きりキリをあくアカルとんきトントクをせセをふ不惡ブツクようもくひい

いたま五まとうれらにひけり。みんぢらの中ナカり
ある人ヒトよみうにその友ともへゆきて。友ともがとりだち途間トコり
きくキクしに供ミサきりのあきゆアキユ三ミの餅ヒツヂをくせよといひ
内ヒテようちりのこころて。されを煩モラももあられ。わざや門アガフ
閉スルされとぞり。兒こどり、牀ベッドもあれを。あきアカルあくアカルことあ
もをといひのあくんや。こきるんぢらよつけん。その友ともに
おり起スルてあくアカルされども迫切ハヤシこすりゆゑよその需ニシもあら
あきアカルあくアカル九クシきるんぢらよつけん。求シよきらカラあ
へらき。尋シよきらカラあひ。門アガフとたけよきらカラひくヒクと
を得シテんナそひまくマクてりとむりのノ得シテ。ふくめうりのノ遇カウり。

を叩きのひりうちるれがあり。土るんぢらのうち父だらの誰
うその子の餅をりとめんに石とあくさんや。魚をりとめんよそ
れえうそ蛇をあくさんや。土卵をりとめんよ蠍をあくさんや。十三
され爾らあきりのふざら善賜とその兒子もあくさんを
ある。まして天よりまをすんぢらの父へりともむりのよ聖靈を
あくさんや。○耶穌あくさき惡鬼とあひりてけた。惡鬼い
て瘡者りのひしき。人々あどろけり。その中あつりのいけ
へ。されの惡鬼の王ベルゼブルもよりて惡鬼とあひりてけた。また
あるひじぐ耶穌とこうろみんとて。天よりの異兆をりとめうり。また
耶穌あくさんとあくしてひけた。こかひよつまきあくさん國へ

あうび。こうひよまされあくさん家へたまうあり太力。サタンもみ
づくりまされあらそもそ。その國りで立んや。それうんぢら
我をひひてベルゼブルもよりて惡鬼をあひじぐせりとめうり。
されベルゼブルにようして惡鬼をあひじぐせり。すんぢらの子弟
かれよよりて惡鬼をあひじぐせり。それうきうのすんぢら
の裁判人とあくべ。キリシテ神の指をりてあくきくと
あひじぐせり。神の國へりもや。すんぢらにきくれ
ニ勇士。もうひときそ郎をあひりときそ。その所有あんせん
り。三。これようつまきりのまくして。それよ勝とまく。その
うみと。鎧とうをひ。う職とまく。三。これともりあ

ざるのそれこそもき。まきことよりよ敏ざるのちも
もうう〇西あくき人よりりぐる旱ふるところをめぐり安
とかくもきどり得をしてひけふ。出一一家よく
らん主既よきくアーネ。もききよすう修飾るを見天つ
ヌゆきそあつきうるあ不あき七の悪鬼をうづきへり
てうした居む。その人の後のありきくはまへようあ不あ
うもアーネの詰をいふとき群集のあうう一婦ニ急を
あげてひけたへ。あんぢをもりみ一腹とあんぢのもじ
乳ハさひもひうる。耶蘇こうへけり。然されど神の道を
ききてそまつをまわるりのきのまもひばあうほ〇衆か

一あつまきるとき耶蘇ひけたへ。つまの世ハあもト。あ
テをりともと預言者ヨナの奇蹟のあくよあくよ
あくらまト。キスルヨナゲニネベの人にあるとある
ごく人の子ハいまの世ヌあくよあるア三南方の女
王さをさきの日よとおに起てひまの世のひとの罪をきざん
うきの地のあくよソロモンの智慧をきんとそきづれ。
そきソロモンよりあくよるひとア三ニネベの人さ
をきの日にとおにたちてひまの世の人のつとそざん。
きさらのヨナの勸言よりそくあくよだ。それヨナ
よりあくよのうりのこたにあり三燈とく隱處ある

ひん升のあへたあへりのうへ入きてるわのそめ光をみ
んがめよ燭臺のうへよあへり三身のあへりハ目あり。あん
ぎの目あきらうあるべ全身あり。その目あへけね
あんぎの身やくらへ三五故よあんぎよあら光のくらうぬ
やうつあめよ云りす。あんぎの全身あきらうにとく
きとくらうあるべ燈のうやきく。あんぎとてもごとく全
あきらうあるべモ耶蘇モくるきるときあるパリサイの人
とくに食せんことを請けきぶ。入て食につけり。そめ食を
ろきまに洗ひとせむ。みてパリサイの人あやしめ
り。主にれよひりけり。あんぎらパリサイの人盤と盤のそ

とをきよくも。されどあんぢく内へ貪慾と悪とみも
ありうる。ゆつよ。外をつづりへゆく内をもつづく
ぎうしや。^四あんぢく所有ゆのとて不ぞなせ。さうばあん
ぢくのためよまくありゆの潔きをあう。^三禍ある。うふ。あん
ぢくパリサイの人よ。薄荷^{はくわく}芸香^{げいこう}あすびまくべの野菜^{やさい}十分の
一をとりきさめて義と神を愛することを廢^{ほき}。これあらゐ
ふべきことあり。われもまくまくづづりざるゆのより。^二と
ぎをひみたう。あんぢくパリサイの人よ。會堂^{くわどう}の高座^{こうざ}市上^{いちじょう}
のあらきうをうめう。^四とぎをひみたう。夫あんぢく
うくる墓^{はか}のじとく。そのうへをあくひとく。これを

あらざるるり^{四五}ある教法師^{ナラヤア}こゝへひけり。師よの言へ
ヨリきく所のまづ^{四六}も^{四七}耶穌^{ナラヤシ}ひけり。あんぢらもわざまし
ある。汝教法師よ。たゞ^{ナラヤア}荷を人^{ヒト}もあらせ。みづから指ひ
とうまそ^{シテ}の荷^{カハ}つけむ。禍^{モロコシ}ある。うふ。あんぢらの預言者^{ナラヤシ}の墓と
建^{シテ}。あんぢらの祖^{タチ}へこれをこうせり。實^{ハナシ}あんぢら祖^{タチ}の事を
る事^{ヨミ}をこうむ證明^{カタマリ}をあせり。それきらへれを殺^{スル}。あんぢ
らをその墓^{カハ}をたう^{四九}。うみやゑよ神^{ミツキ}の智^{ミツメ}いへ。ことあり。そ
れ預言者^{ナラヤシ}あまび使徒^{ツバサ}をうきりてつうをさん^{シテ}すもの中のある
ゆのところ。ありのとばく^{五〇}。むべ^ハと創世^{ハシメテ}よりこの
ゆく流^{ナガシ}あくもべくの預言者^{ナラヤシ}の血^{カハ}へこの代^ハもあそたまん

とある。あり^五をあをもヘベルの血^{カハ}より聖殿^{ユダヤ}と祭壇^{ミカナル}のあるよ
うこうされ^{シテ}。ザカリアの血^{カハ}もまでいる。され誠^{モカニ}もあんぢら
につげん。これところ代^ハもべ^ハ。あんぢらつらをひる
よう。教法師^{ナラヤシ}よ知識^{ノウジ}の鑰^{カギ}をとうそみぐらひ^{シテ}。うつ
んとあるゆのをも阻めり^{五二}。うめことをりくと^{シテ}き學者^{ナラヤシ}と
パリサイのひとくわしくりきどくうをあくみ多端^{タヂ}のことと
とひうけ^{ハシメテ}口^{ヒト}よりひぐことををもよどとくらへ訴^シ
とくとくひうけ

第十二章^{ナラヤシ}そのとき數^{ナム}萬のひとくわひをあくらにあつま
きう。耶穌^{ナラヤシ}まく門徒^{ツバサ}もひけり。あんぢらパリサイの人の餅^{パン}

だねをつゝめよ。これ偽善なり。それ掩藏てあらされざる
りのひき隠瞞てあらきざる。ものもる。ゆゑよ。そんち
らくらきたうのうトことの明處よき。密室よと
耳につきしりへことの屋上よひろぐタバコ。友よるん
ぢちにつけん。身體をこうして後にあらすを爲あらまがる
りのをあらすみられ五。これあらびきのをそんぢらに
あめさん。殺ちゆうのちに地獄よなげり。權威をりくる
りのをあそれよ。これ誠よろんぢちにつけん。これをあそ
るべく六。五の雀ハ二錢よそうにあらすや。あらすに神よ
あらすのその一をよこまれたまをそば。そんぢらのうら

の髪まくらふのぞくらる。ゆゑよあらすあられ。そんぢら
のあらくの雀よりよまきまきうへまく我そんぢらよづけん。
あれと人のまくよあらちをりのそい人の子よまく神の
使者のまくよあらすをべく九。そまきと人のまくよ不認の
神の使者のまくに彼ももううりまく。あらすそ人の
子をそく。りのへゆらざるづれきど。聖靈とけくをりの
ゆらざるづらき人そんぢらを會堂まく有位あよび權
あくよのまくよ曳つまゐば。ゆくにうえ何といひとあ
りひそづらふあられ十。その時よひづき言ハ聖靈そんぢら
にあめまく。十一。ひくのうちよりひとり耶穌よりひ

けり。師より兄弟遺業を引きよどまるとひりく
まく。吉^{十四}耶穌^{イエス}りひけり。人よ誰かされをうそあんぢうの裁判
入まく。物とひりへりのとるせーぞ。吉^{十五}耶穌^{イエス}ひとくにひひけり。
こうろ^{十六}貪心^{だらん}とつあめよ。それ人のひのちん所蓄のゆづ
あるよんようらざる。あくまくうとうをうきりよううりでいひ
けり。ある富人^{トヨヒト}その田畠^{たけ}よくみのりけりばみづかりありひい
ひけり。ヨリ^{ヨリ}産^{うぶ}茂^まをきむるところなきとひにせん^{十八}
ひけり。我^{タシ}くあさん。ヨリ^{ヨリ}倉^{くら}を毀^{おほ}ちうに大^{おほ}きとくそ。
まぐそ^{十九}産^{うぶ}と貨^かをそくよきむべ^レ九^九靈魂^るもむ
ひ。よまく^{二十}ひよ多年^{たうねん}ときをうどりあわくのうとうをゆく

うれ^{二十一}安心^{あんしん}して食飲^{くいん}よしめよとひそんとも^ニあらうよ
神^{カミ}これにひひけり。懸^{けん}あるりのよ今夜^{こよ}あんぢく^くひくら
う^{二十二}とあくべ。さうをあんぢのそそへだり^{二十三}りの^ニ誰^カ
りのよす^{二十四}や^ニあふよそあのれのうめに財^{ざい}をくくち。神^{カミ}につ
りそ富^{とま}ざるりのひうのうのうときあり^{二十五}耶穌^{イエス}その門徒^{もんと}よしも
けり。やゑよこれあんちにつけん。あんぢら生命のうめに
あんとくうひ。身體^{からだ}のうめにあよと著^きんとくありひくら
うふみ^{二十六}れ^{二十七}いのちんうそうふく。うとうを衣^{きぬ}うりゆ
うふみ^{二十八}鴉^{アラ}とありひみよ。稼^うを穡^むをうりゆもあやも
うふみ^{二十九}だ。されど^ニの神^{カミ}ハあはこれうをや^レなふ。まくとあんぢ

らへ鳥よりゆくとまことひくちくそや ^{二五} みんぢらのうち
誰 ^れ すく思慮てそひゆうをす陰中のべえんや ^{二六} されを
最小 ^{ひよなき} 一 ^い とみぢらあくまきアヨ何そそひりうをありひじぢら
あや百合花へひうんしてそまうとあり。勞を紡がさるふ
り。されみんぢらにつげん。ソロモンの榮華の極のときとも
この花のひとう石どもよそひきうき ^{二七} 神モケの野もあり
てあき爐よあけひきらう草をも如此よそひせこまく
まくみんぢりをや。あく信仰う生きりのよ ^{二九} みんぢらふ
よを食ふと飲んともとむらあうれ。まく墨慮 ^{三〇} とある
れ ^{三一} まくみんぢらのものと世界の邦人のりともむりのふ

り。みんぢりの父ハこれらのゆゑみんぢりにあくそくそくみ
らうとある ^{三二} 神の國となりとめよ。さうぞこれらのみんぢ
らう加くらべ ^{三三} ちひきき羣よあそくあうれ。みんぢら
の父ハよろこびて國をみんぢりにあくへたまみん ^{三四} みんぢ
らの所有をうりて施濟あのかくめよつねよあびぐる財布
まちみち盡ざるくらと天ヌそまくよそく、盜もぢら
よらむ蠹もそくまくゆう ^{三五} みんぢらの財寶のあ
とこうじらみんぢらの心もまくそくまく ^{三六} みんぢら
腰に帶し燈をとりとされ ^{三七} あくとん婚筵ようくく
きくう門をくうをまくゆうひらんとめようきと待

ひとめごとくせよ 主人きくてその儆醒モロコシ一とくを見ふ
べの僕ヒトへきいもひる。あくとよまれうんぢうにつけん。
主人みうちうに帶アマー あむべと食につせまみこれよ
供事ヨウジ一 六 あらひ二更 あらひ三更 よ主人きくにて
あらひせらを見あがふの僕ヒトへきいもひる 三九 うんぢうられ
をあくべ。り一家のあく盜ハサキづきの時タチよきくらうと
あらをその家アフとまりてやあらをまド 署サトさればうんぢう
もあらうためそくせよ。ありもきとくよ人の子コノコら
んとまきをあら 四一 ベロウひりふ。主シテよろこびくへはれ
にりうすくいもぐくの人にりう 四二 主シテひけくの時タチよお

すひて食物モリとあくべしめんくめに主シテがその僕ヒトとのくへよ
うそく忠義チヨウイと智シキりくづきいそれあく四三 その主シテ
きくとくよかくのうとくつもりを見らうの僕ヒトのもひ
る四四 我ワタクシとくにすんぢうにつけん。その所有シテをうながれよ智シキ
らをく四五 その僕ヒトのうもんとあく四六 その僕ヒトの主シテありまざうのさ
うくあそぶんとあくひ。その僕ヒト婢メイドをうちうき飲食エイシキ
てう酒サケよゑひそめん四七 その僕ヒトの主シテありまざうの日
あらぎうの時タチよきくうてこくを斬刑カツイをむせふを不信者ブンシンガ
とああどうをく四八 僕ヒトあく四九 のこうとくへりあく五〇 預備ヨウビ
せき。やくそくの心ハラよもぎうがうりのくへくへくとあく五一

らん四六 あらをしてうるべまことあせりのひ 扑るこ
ともすくあらん。あらあらうるのあらく求らる
ア。あらあらあらきしれりあらくゆもく。四七
れ火と地よあがひきんこめよきわれ。それよきう欲を
でよろ火の燃うることあり。五八 我らまみのバテスマあり。
その成らるまくひきゆりをうりぞ。五一 まみの安
全を地よあらんとてきうとありや。それらんちらに
つけん。あらうぎうりて分争あむ五三のすよりのち一家は五
人あらぶ三人ハ二入よてきそひ。二入ハ三入よてきそひて
きそひ。五三 父の子ニ子ハちに母ハむあに女ハちに姑

そのよめよ婦ハそのあうとあよてきのへてせううす
西耶蘇まゝひりぐよひけく。雲の西よりあうるを見ばまち
よ雨ふらんとみんぢらりふ。もくしてあうり五五南より風ふけ
を暑うらんとみんぢらいふ。もくしてあうり五六偽善者よ
天地の色象ニヨウトコトがありてこの時ニヨウチあくそ
ぎりもみんぞや五七まゝみんぞみづくら公義をさゞめざる
う五八みんち訟るりのとさに有司にゆくとき途中にて心
をつゝくとくをよりゆきなれんことなりとあよ。あそぢ
く訟者みんちを裁判人ニ曳。きのほんほんみんぢと吏ニ曳
く。あそぢやくみんぢを獄よひきん五九これみんぢよつづ

ん一錢ものうさぎを償までいあんぢそぞりといへることを得

ざるふく

第三章

そのうさぎあつやすりたつりのうちヒラトケガリラヤ
人の血をその供物にまかへてととを耶穌につぐもりのあり耶穌
うそへてうそらにいひけづ。あんぢら一スガリラヤ人へうくの
うそく害されしゆゑよすべそのガリラヤ人すもあんぢら
りのとありふや。されあんぢらよつげん。あくらまあんぢら
悔改すばみふあるべく不うがきえ。シロアムの塔たふ
れて壓死されし十八人のエルサレムは住るまくひとくよ
もあ不罪ありのとありふや。我あんぢらにつげん。あくら

をあんぢらくふあくあめまくうふああドくろうがきくべ
しまくこのうそくをしき。ある人の葡萄園ようゑき
うる無花果樹ありしけ。きくうてこれよ果となりとももどり
えきうけきそ。その園丁よひけづ。され三年きくうて
うの無花果樹えうとりとももどり得。これと所されふ
んそりうづに地をうきてやへもたけづくらうへけづ。
主よそれその周圍をうりてうれよ糞まくまで今年もゆ
せ九り。果をもあらうよ。う結をのちよこれを
研べし。耶蘇あんぢくにちよある會堂よてきて下
よ土十八年あらようづらをうれよ婦あり。うまく

まことにも伸らへとあふぎりき^ナ耶穌^{イエス}これとらとよび。
婦^{カミ}よろんちのその病^{サル}よりもあさりといひて十三手^{サムシテ}を元
みよあきけまばたちよのひて神^{カミ}を讃美^{アゲマツ}す^ト古會堂^{コクイドウ}
のつうき耶穌^{イエス}の安息日^{セイキヒ}よりやへたらこゑを怒^{イハズ}。こうへて
ひとくよひひけり。事をあべきのひ六日^{ヤシタ}あまびその中^{カミノ}
にきりていやさく。安息日^{セイキヒ}せざれ^{ナシ}主^{シテ}うまとにこる
つをいひけり。偽善者^{ギヤンダ}よろんぢりある。安息日^{セイキヒ}にこそ
その牛や驢^{ウシ}をとき廄^{アヒ}よりひきひき^{アヒ}て水とのまゝ
ざる^{アヒ}十六^{シシ}と二のさん^{アラハ}アブラハムの齋^{セイ}あくと^{アヒ}十八
年^{サタ}に縛^{タマ}られたり。そのむちび^{アヒ}を安息日^{セイキヒ}とく

づくらざくらんや^ナ耶穌^{イエス}くひひけり。敵^{アシ}やよりのまな慚愧^{カミカイ}
ぬまひひとくよるそものあせ^{アセ}うけあき^{アキ}とくを
ようく^ア耶穌^{イエス}まやりひけり。神^{カミ}の國^{カミノ}へゐらう。あまら
へまく^アまよ^アとくんや^ナひくづぎの芥種^{カブシキ}のじとく。人こ
れをとりてその園^{カミ}よまけを長生^{ロング}てあるい。樹^{ツリー}とあり。
そらの鳥^{トリ}のをよもすむもす^アまくひひけり。され神^{カミ}
の國^{カミノ}をあま^アだとくんや^ナ餅^{パン}だねのじとく。婦^{カミ}これと
りて三斗^{ミツ}の粉^{フウ}の多^{タメ}にくせをことぐくふくれい。生
るう^ア耶穌^{イエス}とくつ。各城各郷^{コトコト}をまきエルサレム^{エルサレム}むらひ
て旅^リだく^アあひひひけり。主^{シテ}よくもくもくのま

少きる西耶蘇^{キリスト}をまざりよひひけく。窄門^{スモリ}よりてありよ力^カをつ
くせ。又^テあんぢらよつげんへんうとをりとめてあくべざ
るゆのあやし。五家^{五ツ}の主^{お主}がきて門^門をとちのちにあんぢ
らそとたうち門^門をとまきて。主^{お主}よ主^{お主}よされよひとけとしも
んよ主^{お主}こゑて。これあんぢら何處^{ナニカ}よきくろしゆきす
といもん^{モト}あらうときたよれどんあんぢのまへよ食飲^ム
あんぢまよこれうの衢^キよしーへたゞきとひひとせん
ニ^モ主^{お主}こゑて。これあんぢにつけん。ソグソアリキくろじ
ウあらむ。えふ悪^{アハ}をふきのよされをされといもん^{モト}ふ
んぢらアザラハム^{イサクヤコ}あすひまごの預言者^{ナガヤマ}の神^ミの國^ミ

すありてあんぢら^ハ外にあけひづきと見んとまつ
哀哭切歎^{モリ}ることあぐ^ハ一^モまくひりく^西やひ^北ぞ
えあみよりきうて神^神の國^ミ坐^ムあん^モそれ後^モのも
のをさきよ先^モのりのんあとにあぐ^ハ一^モ二^モの日^{アハ}パリ
サイのひづくまうりて耶蘇^{キリスト}にひひけくヘロテ^{ヘロテ}あんぢを殺^ム
さんとあるゆゑようを離^ムゆけ三^モうそとひひけく。るん
ぢらやまくその狐^{キヌ}よつけよ。さればあを惡鬼^{アハ}をあひい
ど^ハ病^シをひ^カ第三日^{アハ}よ^カのことをまくらん^モされとも今日
あま^{アマ}明日^{アマ}次日^{アマ}をこれあく^ハをゆく^カ。そ^ハ預言者^{ナガヤマ}のエルサ
レム^{エルサレム}のあくよ^カうろきう^カことあらね^ハあり^ハあ、エルサレム^モ

エルサレムより預言者として、すんぢよつとされたりのと石
に伏せうそちりゆく。母鶏の雛をつむぎのあくよあくひるご
とく。それすんぢの赤子をあつめんさせることいふ
そや。あんぢらん欲まきを三みよあんぢりの家を壇とする
のとくらべし。またとよこれあんぢにつけん。主の名によそそ
きするゆの福ありとあんぢりいそんときいふまこと
れを見ざらべ

第十四章 耶穌あんそくにちよ食事のためある。宰あるハリサイの
人の家よりへて。人々うちねとうひく。そのまへよ腹脹
とえうらひる人あり。これを耶穌うそて教法師とハリサイ

のひりぐよいひりぐ。安息日よいひをうらんよきやいふ。
クきり黙然うり。耶穌うの人にとくへ醫してこれをさら
くめ五うきりにうそといひけり。あんぢらのうちくれり
驢ありひれ牛ふどの阱にあうきりんよ安息日よひまみ
やうに曳出さう六うきりこの言につきそらかること
あくともさうき〇うそその席にまねられくるひとぐの
首位をあらびを見て。耶穌うそくとりそられらにいひけ
へあんぢ婚筵えんせんよまねられんとき。首位よ坐まることあら
れ。あそらくあんぢより尊人まねられあが九うれとすん
ちを請。うのきうりてこみ人よ坐をゆくまといそん。

らぶるんぢもむて末位にゆくべし。このゆゑにあんぢ請
きんとさきひゆきて末位ニ坐せよ。まねきへりのきたりて
友よ首位に坐めとあんぢにひそじ同席のりゆくまくに
あんぢこふとまるべ。アキアキとみづくら高ぶるわの
へ卑され。みづくらへりくらうのそたくせらうべ
三まくつきを請るゆのにひひけ。あんぢ午餐あり
へ晚餐をもうくるとき朋友兄弟親戚まくらめ鄰のひとを
まねくふれ。おそりくはれらゆまくあんぢをまねきて
その報答をあまん。あんぢ筵をあまび貧乏廢疾跛者瞽者
あまくをまねけ。さうりばあんぢ福すくべ。そひのれらひふ

んぢよ報ことあまく。さうりびの復生。うんその時
あんぢにむくひあきをもう。五とあよ食せりりの一人これ
をきて耶穌にひひけ。神のくよ食まわりの、さのをひ
る。十六耶穌。これにひひけ。ある人あらひあら建をまくけ
て多賓をまねけ。さうまひのとき僕をその請うりゆにて
つうもーて。あぐそのりの既ちあそりだもびきうそ
りもせりて。大れらもあかト。辭す。そのモドめの
りの彼よひひける。それ田地をうひれゆきて視ざるを
き。ねがもくはつきをゆうべ。十九まく一人のりのいひ
け。それ五耦の牛をうひひれがこれを試るもあにゆん。

ねうつともそれをやうやまくまくひとりのりのひひけ
へ。され妻をめどりたり。こひゆゑにゆくことをえざるふり二
その僕ううてころうと主につづくを。あゝ怒てそ
のありべよいひけら。ちくゆうに邑の衢巷にゆきて。まづ一
きりのうそ。あくまへめひ。みどをうよつききうれ
三 横
僕いひけら。主よ命のうとくあせり。されとあなあまうの
坐あり。主あり。よいひけら。道路や藩離のうとうにゆき
強てひとくをつきまうり。家よみこしめよ。これすんぢ
らよつせん。お請きだちひり。ハひとくたよどが餐をあち
るふりのふ。○五 あくまひり。耶穌とどりにゆき。

耶穌ううみでうきうりよひひけ。六 あくまぞ我よきううて
そひ父母妻子兄弟姉妹。まくあられの生命をもじくむわいの
にあらざればうう門徒。こあるとをえど。まくそひ十字架
とあらむ。七 こられよあやめりのううと。とあること
をえど。八 あんぢらうれう城をきよそんよまく坐。九 そひ
つむじうのこひの竣まぐ。足やひるよと計さん。んや。元
らくひ基をあらうて。これとあくまをちが見ゆのうる
あきうらうして。平らう人を築く。みそ。としもん
三 まく玉ひり。ほくの玉と戦。んよまく坐。くろの一萬人を
りくれ。二萬人よ敵をさきやいのやと籌。うんや。三 り。及を

べ敵を不つて、きりとまく使をつもくと和睦をりて
アミナキルのひに、門徒とあることをえを、^三鹽へよきのり
まきをさうりのひに、門徒とあることをえを、^三鹽へよきのり
なり。されど、あわその味をうるるあを、あよそりとされた
味をつりんや、^三田より糞を益みく外、^三外ともそらうる。
耳ありとまことあらゆのひきくべ

第十五章

さて税吏と罪ありのひの耶穌よきくんとそちう
よし、けきは、^二バリサイの人と學者、^一もつづきびりひりく。
この人へつゝあるひとにまじて、^二食せり、^三耶穌この
譬をうきらようううそひしりく。^一あんぢらのうち誰、^二百

の羊ひつあらんにり、^一その一とうひつをうそううそ、^二九十九と野のあき。や
きてそのううそひ、^一羊ひつをうそまふううそ、^二ねざんや五ごうね
得えつけうそび、^一それとあづれの肩のにうけ六家むかようへそみ友とも友とも
とその鄰となりのひとくをよびあわめてひそん。ひそぎとざのよよ
ううそ我私うそううそ、^一羊ひつをえくまびあくセ我私あんぢらにつん
ううそごくひとくの罪つみへくひあらくある悔くやあらじも
よあすがぎう十九の義人よひにんよひのる不天ふてんよあひくようこひ
あらんへまく婦よのうちうそ金錢きんせん十枚じゅうまいをりちその一枚まいを
ううそりんよ。燈火とうひをとりて室むろと掃除そうりしられをうらまそ
のねんどうにうそひざらんや、^九うづねえがそめの友ともとそみ鄰となり

のひらくをよびあつめてひもん。されどさうよもうとくま
うあくる金錢を乞ふるより+されみんちもてつぐん。
くのびとくひくの罪人へあらためるが神の使のま
よろびあづべ。○土まくりひけく。あるひとふくらう
あり三ものあとうと父にしむけく。父よまくうき業をつ
れま分あくよ父そのちんだいとよきりよきもくわ
士畿日も經ざうにあとうとそのあんざいととくぐくあつ
そくにて耗せり。古くくつひやせりとき。あらいろ
饑饉その地はありて彼ともうくあうそあけきが玉ゆまそ

その地のあらひと身を投す。その人ふくを牧くめようま
と野。又つるをせり。六月の食ちる。とくろの豆莢をりてあ
か腹をきさんとありかねどもきどもすもくまにあくふ
る人ふく。そみづくら省悟ていひけく。さく父のとくろふく食
物あまれる傭人のゆくむくあたられ。天とくろのまくと
ま起て口か父よやきそひもん。父よそれ天とくろのまくと
罪滅ぼく。うきび十九。みんちの子とどもする足きるもの
り。みんちの傭人のひくのひく我とある。アキとま
も起てその父よやけり。あ不遠あり。にその父うきと
てあらね。もうりゆきその頸をいざきて接吻。ぬ。子

ちよひけく。父よそれ天とあんぢのまゝ罪状をうへ
うきそあんぢの子とあくたにまづぎる。二父そのあも
べどりたりひけく。いとや美服をりちきてうれよ衣せ。
その指^ゆ環をあめ。そのあくよ履をもくせよまき肥^よら^う犢
をひきまきて宰^さき。ひきて食してまん^{まん}され
ケ子あすてまく生^{なま}うるひとまく得^えまがふくそくれらと
ともよみーみち^む二五 そのあよ田^たあり^うがく
て家^くよちうべき樂^{きよ}と舞のあくをき^う六 その僕のひとりとよ
てられ何^なとぞかとぞうた^う七 ありべりひけく。あんぢのあ
とうとううだ。恙^いあく^うきをえく^うたまく^うとあんぢ

ケ父^おえく^う犢^{たん}とあく^うあく^う入^いも。うの爲^{ため}
はその父^おで^うわよまき^め一^え九 二九 父に^うて^ういひけく。二
れ多年^{うぶん}あんぢて^うて^ういも^うあんぢのりま^うめにそむく。三
されど^どのまく友^{とも}一^え十 二^え九 もあく^う無^むと^うあく^う一^え一^え九
一^え十 二^え九 姉^{あね}のうめよあんぢの業^{わざ}をつひや^うたる^うあん
ち^う子^こく^れを^うれ^うめに肥^よう^う一^え一^え九 を^うそ^うき^う三^え九
に^うひ^うけ^う。子^こよあんぢつよ^うそれと^うりた^うあ^う。まく^うう^う
所有^{しゆゆう}のうああんぢのりのう^う三^え九 あんぢのあく^うと死^死
まく^う生^うう^うあふてまく^う得^えう^うあく^うわ^うよろ^うび^う
樂^うむ^う當然^{とうぜん}のうとあ^う

第十六章 耶穌

まゝそのでしにひけり。あり富うひととん
とうありけよ主の所有とつひやーあと主人へううたくらる
主人さんとうとおびてひひけふ。さんちにつひてさんき
だらこくへ何ぞや。りそやさんちをさんとうとあへる
れをその會計たゞこくふうとされは辯よをんとううう
らありくら。主人さんやくめをとひあげるがあうをあき
ん。それ鋤をとくらんかるく施を乞もぐう。我やくめ
とくらきんとさんこれらの家よむくらうき所為を
あきうとそ五つはあうの負債人をとくとくよびて
そのもトめのりひひけふ。さんぢさん主にあゆくさ

いよやどあうや六千石そひ油百斗あり。うきにひけ
る。さんちの券書ととひひそき坐して五十と一けよま
一人にひひけふ。さんちの負債あるかどあうや。こつそひ小
麥百斛あり。うきにひひけふ。さんちの券書ととひて八十と
うけよへあう。その所為のくみあるをうてこの不義あ
るをんとうとあめう。それらの世の子どもらふこの世よ
あひて光明の子どもらよりうとむ巧るうかうきあ
んぢうにつげん。不義のくみうをりてあひが友をなよ。こ
へうきうらんときうちさんちを永遠安よむくんが
こあひあう。小事よもよもく大事よもよもく小事

よきしらうりきるりの大事す。トトから也。ゆゑも
トさんぢう不義のまうちにましらうが。トきうまと
との財をさんぢうにあづけんや。さんぢうりへ人のものに
不義るうが。トきうさんぢのりとさんぢよあくんや。古
ひう人のありへかうての主人よつる。とあくます。そのこ
きを悪くわと愛し。あくひれと重んじうきと輕
んまればあり。さんぢう神と財よくなつる。とあくを古
懲ふうき。パリサイのひどくころとまこと耶蘇とあくけり
ま耶穌。トきうにいひけり。さんぢう人々のまくよしが
うちを義と見るのあり。されども神をさんぢうの心を志

きり。そき人のくわくむとくろのりのい神のまぐにすくえ
きりあり。ま律法と預言者ハヨハネまでふりそめち
神のくわくのべつへり。こる用力てくわくしりんとする
より。天地のまなびの律法の一畫のまだらうとくゆまアハ
まごの妻をひどくして他のものをめぐらば姦淫とあらふす
まく夫よりざれくる婦とめぐるりのも姦淫とあらふ
なり。十九人ともめ。人あり。紫袍と細布ときてひどき
りたぬしめり。またラザロといくる。貧者あり。ひく腫物
をやまと富るひとの門又あき三そり窓よりあつ。餘屑又
てやくあるれんとあり。また犬きくりてそりゆり

を越ぬ三まづしきりの死よりまづ天のつゝひとちたよりて
アブラハムの懷よあくられたり。富人もあよそもあむれ
ケニ地獄より下へこそその目めとあげ。もとてアブラハムとその
ふくろふくろにあるラザロを見て。さりびひひけく父アブラハム
よされをあそきラザロをつくりてその指指のさきを水
よひて舌したをひきためたまへ。それとの火燄のあら
にくやめあり。アブラハムひひけく。子よんぢいき
りとまよんぢの福ふきをうけ。まラザロはその苦くる
くらくらとあり。いまき慰まなぐられよんぢへくらくら
くらくらとあり。こまよんぢをこよりよんぢへくらくらんと

あるともえど。彼よりこれらをよそうんとあくともまく得
き。あめよこまくらとよんぢらとのあいと限かぎあくまく
あるいある淵ふちあり。そこへけく。まう父よねがちくらくら
父の家へラサロをあく。たまへ。そひこれよ五人の兄弟あり。
まくまきうがこの若のところよきうちざるためよラザロを
證據しきぐある。めよ。アブラハムひひけく。うきうりよモーセと
預言者よがんよある。こまよきくべ。うそへけく。あくらあくらせ父
アブラハムより死よりうきうりゆくゆのあら。悔改くわいめい
アブラハムひひけく。モーセと預言者よがんよよきうおばかくと
死よりよみぐるりのあり。ともその勸すすをうけざる

第十章 耶穌

らん。そとをきくをりの禍あふの小子のひとり
をつまうするよりの磨石を頭よりけられて海えるけいき
らきんこと。その人のためよよりそばへうちらを謹慎よ。
り兄弟るんぢよ罪被うけてうけられを諫よ。れり悔
すをゆらせせせ一日よ七次しちじをるんちにさうして一日よ
あ、たひるんちにむうひされ悔なまといもゆゆまべめ○使徒
主よひひけら。これらに信しんをまさせよ。主ひひけら。るんち
らりへくらへだだ一粒りあとの信しんあらばこの桑樹くわきよぬけ
て海うみ植うきといふとるんがらよあらへへべべ○誰谁うえ

ぢのうちにあるひ耕たありの獸けいを牧まありくあらんよ。うき田たよ
りううううときあるやうにゆきそ食くつくといひのあら
んやハスうといもどどやく食くそる人ひとが食く飲くそるま
で帶おきしめられよつくて後のあんぢくくののままべべ○僕わあ
るるの命めせしめめことをあらざざして主おはまま謝あやままきき。あら
トトとこれれありくくうればまさるんぢら命めせられれことをあた
ふななだららききもだきき無用むようのありふるままききことをあた
るるううりり○イ耶穌エルサレムよゆくときマリアとガリラヤの
うちうちをとほり土ある村むらとき十人の癪あざ者ものありそ
うきうきよあひあひううにうち聲こゑとあげあげひひくく師シ耶穌イエス

よそれらをあきらめたまへ 耶穌 うれを見てひひけた。
やまとあのれを祭司みみせよ。うきりやくうちよ潔られ
り五そひとり己々いやさきだりを見てへりきたり大聲
よ神をあぐめ 耶穌のあへりとにひきあへて謝せり。
うきのサマリア人みて 耶穌 うへてひひけた。きよめられし
りの八十人をあくせ。その九人もひくにあく大のみ異
邦人のあくに神をあぐめんとてうどするのあらざる
まくまくしたひひけた。起てゆけあんちの信仰あんちを
まくまくしたひひけた。神の國へいづきの時きくらとパリサイのひと
よとされまし。耶穌 うへてひひけた。神のくもをあら

されてまくらりにあらむ ニ此 ようと被ふうと人のりよ
べきりのにもあらむ。それ神の國へあんぢらのうちもあり
三まく門徒といひけふ。あんぢら人の子の一日を見くわも
ふ日きくらん。さきどもうきるべ 二三入々 あんぢらよこに
みよくらよみよとひきん。さきども御あられあくふあ
れ電光の天のあくよりひき天のこゑにひ
うがごとく人のやもとの日にくあふ 三 されど人の
子うあくをまづあくの苦をうけ、またこの世の入よま
らまん 六 ナイアの時もありくどく人の子のときたものあ
りあづ 七 まくあくちナイア方舟といひく日まぐひとぐ

食飲嫁娶あるどあくべー^テ洪水きたりてうちまうをなうば
せり^テま^テロトの時^テモモ^テありき。ひとり^テ喰飲貿易樹藝
構造あるとあくべー^テに^テ元^テロトソドマより^テソ^テ日^テ天^テ
火と硫^テをあらせてうき^テと^テあらうがせり^テ三^テ入^テの子^テのあ
らふ^テ三^テ日^テにも^テま^テ一^テの^テあくべー^テ三^テその日^テ三^テ人^テひのう
へよあらびそ^テの器具^テりく^テよあくとも^テこき^テを取んとそく
ざるあられ^テま^テ田畠^テよあるののもあくべー^テくくるあられ
三^テ口トの妻^テをあり^テ三^テあわよ^テそ^テそ^テの生命^テをたま^テけんと
まくゆの^テこれ^テ失ひ^テり^テそ^テの生命^テをう^テまんりの^テ
うれを保全^テア^テ三^テ月^テをさんぢうに^テつげん。その夜^テえう^テ同床^テ

あらんよ一人^テのとくま^テき一人^テのとくま^テべー^テ三五^テあくべー^テの婦^テとくに
磨^テりき^テきりんよ一人^テのとくま^テき一人^テのとくま^テべー^テ三六^テうちまうに
えくそひけく、主^テよこうこと^テ何處^テよあくや、うきうにいひけ
うの屍^テのあくとくろよも鷹^テあくまくらん
第十八章 耶蘇^テま^テ人のつねよりのり^テ解^テ怠^テま^テき^テあく
うとくとくま^テりにう^テう^テけく^テあるまち^テ神^テをあそま^テる
人^テうやまも^テる^テ裁判人^テあく^テけく^テその邑^テにやりあ^テさん^テ
あうて^テま^テを^テか仇^テよりまくひたま^テといひ^テうれよ^テう
しに^テうき^テう^テけ^テケ^テう^テう^テと^テそ^テの後^テう^テう^テのうち
にありかけ^テ、それ神^テをあそれを入^テとすもうやま^テざれど^テ

の娶めされをヨハウラヨハウラせを、うきふ絶絶をきくりとされを賄カネ
主シテひけら。不義フミす。うきい
もんじんのひもヒモとこをまげマゲ。神も晝夜サウヤいのつこと
うのえらびエラビるよりをあくアク思スル。つひよまくマクさん
やへされすんぢらにつけん。神ハまくマクようちをもくムクさん
もん。されど人の子キくらんとき信スル世にみんやハナダニに
えぐらエグラ義ギト。ありひ人ヒトをうろロしむ。あすりのよ耶穌イエスらの
うとウトをあくアクナナ二ニ人ヒトのうんとそ殿タツミの
ひとヒトのバリサイの人ヒトの税吏スカウタ。バリサイの人ヒトのうもて
えぐらエグラくいのき。神ハそれへ他のひとのごくゴク強索カジム

不義フミせ腰ウハシせを、まくこのえうきとエウキトのごくゴクにヒもあくアクぎギを
謝ハシメ。され七日間セブンまくマクひ禁食エスカ。まくマクをぶブてうりうりの
十トかのカ一ヒをさしけシケ。税吏スカウタはちうらにうらを天スカイをあくアクぎギ
をその胸ウヂをうらもモ。神ハ罪人ミンジンするうきエウキとあるれハルレをうらと
りくリク。これあんぢらにつげん。うのひとのうヒトノウ人ヒトよりの義ギ
せらセラきと家ハシマよくヨクだり。それもくモクうづらヅラを高タカりのノ卑タガ
らタラ。うづらヅラをつまツマうきエウキのハあげらアゲラ。耶穌イエス
よきヨキれんレンがガ入りスルをつきツキうウした、門徒ムンタウ
ち見てミテうきエウキをりまリマめたり。耶穌イエスをきくキクうウをまづ門ムン
徒ムンタウいひけエイヒケ。嬰エイ孩ハチをされよきヨキうらを禁カジム

きうち。神の國よきものへのくのへてこきりのまゝさ
とにあんぢらよつげん。あはよそ娶孫のごとくに神の國
をうけざるのへこれよ入ることをえがつる。大有寧
とあてひひけた。善師よのぎくみき生を嗣ぐめにこれ
あるをあまべま。十九耶穌うきにひひけた。あんぞそれを
善といつや。一のわたりに善者へる。もあち神あり。十
誠のあんちが知とこうなり。姦淫あるあき殺す。され竊あれ
安證をうつるあき。あんちが父と母とをうやまへらう
けた。されうあきが幼よりまわれ。わのあき。三耶穌
ときまてひひけた。あんちが不ひとりを虧。その所有と

うとうくうく。貧者よどことを。さらば天よあひて財あん
あしてきう。我よあくぐれあわゆ富りのう。キ
クをこれをきて甚うれひ。二耶穌。そめくく憂一。と
そりひけた。とめりの。神の國よいひひくに難うふ。五
とめりの。神の國よいひひく。駱駝の針のああとほとも
あ不や。六。これをきけりのとひひけた。さらば誰
うまくひをうべきや。耶穌。ひひけた。人のあへえを。る
ところの神のあへうらとこうあり。八ペテロ。ひひけた。づき
ら一切をまく。あんちにあくぐれ。九耶穌。うきうにりひ
けた。またにあんぢらよつげん。あはよそ神の國の

めよ家あらひの父母あらひの兄弟あらひの妻あらひの兒女をまつ
るよりの^三今世^一こそ幾倍^二さうけ來世^三もくまくふきいのちを
うけざるもの^一○^二耶穌^三あらひの門徒をとひあひ
てうれらにいひける。これらエルサレム^一のやる人の子よつ
いて預言者があらされ^二ことへ皆とびらか^三それ
人の子ハ異邦人^一よこしまれ^二鞭撻^三ひじきられ^四せら
るべ^一うつうち^二鞭撻^三門徒^四の語をまく^一もきとく^二を
まくこのり^一ことくまく^二隠^三まくそのう^四もる言
をあらざ^一き○^二耶穌^三エリコ^四よちうすね^一とまき。あら瞽者^二

みちのう^一もくらに坐^二して乞^三うる^四ヤ^五大衆^六のまくらを
きく。こゑあんじごとぞといひけま^一ひとく^二ナザレの耶穌^三の
まくら^四るりと告^五瞽者^六よぞうりいひけ^一る。ダビテの子耶穌^二よ
されをあもれ^一たまへ^二えさまき^三ちゆく^四りのども黙止^五と
れをりま^一むきど^二まもく^三ダビデの子よこれとあもれ
たまへとよぞうき^一耶^二耶穌^三もととまく⁴くれをつまき⁵され
れと命⁶瞽者⁷ちようけ⁸き⁹耶¹⁰耶穌¹¹うれよとひけ¹²主¹³よ見る
んらと¹⁴ねふ¹⁵耶¹⁶耶穌¹⁷うれよひけ¹⁸見¹⁹らし²⁰きうけよ
あんちの信²¹さんぢをまく²²四²³うきや²⁴て見え神²⁵とあぐめ

て耶穌イエスもあたうひぬ民ミン見るこれを見て神ジンをあめう

第十九章

耶穌

エリコエリコよりしてまきやくとまマザアカイといへる人

あり。税吏ホシヒのうちよりして富トキりのありアリ耶穌イエスもひうる人ヒトある
う見んとあひ人ヒトとも身量ボディひくけれど大衆ダウジンするよよりして見
るらどをえを。うれと見んとくちもへりゆき桑樹ソクノキのむぎを
り。耶穌イエスそのみちを過ハシんとあるゆゑありアリ耶穌イエスこにきう
あひきそられを見ひけ。ハザアカイよりそきくとてきこれ
今日うちをさんちの家アパートはやどらん。うきひそきくとてきこれ
うらひて耶穌イエスをむくと。衆人ソウジンこれをえとえ怨言ブヨウモンひけ
ハクレのゆきと罪クニヤあひひとの客ゲストとされハザアカイたもて主シテ

よろが所有オーナーの半ハーフをまづへきりのよそとさん。わへこれ証
証シテて人ヒトよりとうだりとこううあらば四倍ヨンペイもそこれをつぐ
のふべ。九耶穌イエスうきたひけ。今日一の家アパートをくちうこと
を得エタ。そいこの人もアブラハムの裔エイジをも。それ人の
子ヒトへうへあひへりのとたぐねて教タマフらひよきよき。土衆
この言ワカガムをきけ。ときまく譬ハナメとまうりへり。二のエルサレム
えちくくうひとく神カミの國カミノクニうちに顯明カミノカミとあり。人ヒトがゆ
ゑゑく。あり貴者アラタヒト。うから領地リョウジとうりへくらんとて遠國エイクラント
へゆくとき三十人の僕ハツジンをよびてうきうに金十斤キントシをあへ
てりひけ。うかくうまで商賣カネスルせよ。その國民クミをう

らまくあくまで使をつてもうひけふ。それからこの人を王
とあるらとをうのまを十五領地をうけとくと云ふ。あく
ちゆうどいしてあは不どの利をえうとあらんとて金
をあくへあきる。僕どもを召と命しぬ十六もとめの一人き
たりてひけふ。主よそんぢの一升ハ十升の利をえう。主
入りひけふ。よ善僕よそんぢひきのりのよ忠ゐれ
十の邑をつまどるべ十八まさつまの一人きくうてひけ
る。主よそんぢの一升ハ五升の利をえう十九主人ひけふ。
そんぢも五の邑をつまどるべ二十三一人きくうてひ
けふ。主よそんぢの一升ハ七にあり。それ手巾よつみて
けふ。

藏あきなりき。そんぢ嚴人多くあひよされあられ
り。そんぢ置ざるりのとどり播ざるりを獲りとる。まがる
り三主人ひけふ。あき僕よこれそんぢの口によりて
そんぢを鞠へ。そんぢこれへ嚴りのとどり置ざるりのと
り播ざるりのとどりとある。三あくへに何ぞとくきふると
本と利をそんぢあひよ。金を為替坐よあづけさう
や。遂ようそくらに立ちあひのよひけふ。このひととの一升
をとくそ十升りのよひよ。五ひよぐ主人よ
いひけふ。主よそんぢの入をとに十升をすそり。主人ひ
けふ。それそんぢらにつけん。それあひのあくへられ。

りてぬりのんその所有りのまじゆとらうべくうちるこ
敵まよもうちつむ支配をこのまざりゆをこしよつてきよ
ウセヨシマシテヨシラウセハリ^主耶穌このことをいひてのち衆
さきどもエルサレムのがきり^{二九}橄欖とあぐくる山^山よ
きるベツバゲとペタニヤムちうづけときその門徒あらうを
うきさんとしていひけ^三對面のむりへゆけ彼處より
を人のゆゑに乘ぎりとこうのつうき。驢駒^駢もあらず
それを解てひきだれ三カ^三わうすんぢりえふにゆゑ
解やとどきのあらぶくこくふべ。主の用あり^三奉遣
たるものゆきけき。もくそそのうだまするごとく

遇ぬ^{三三}うちやら驢駒^駢とくとま。その主^ゆどすりうちら^ゆるん
ぞ驢駒^駢とくとくやといひ^{三四}くば^三こくして主の用ありといひ
て^{三五}これを耶穌^{イエス}よひきだり。あのが衣^いをうそのこよあま
耶穌^{イエス}をそのうの生^{三六}耶穌^{イエス}ゆきりとま衆^まのこうゆ
き路上^よあけり^{三七}耶穌^{イエス}エルサレムよちうづき橄欖^{えんらん}山^山をく
ごらんとまうとま。大衆^{おなま}ので^よもみよろくびそ見^い
ところの奇跡^{アヤシキ}あるまくの能^ようりと大聲^{おおこゑ}よ神^{ミコト}を讚美
ていひけ^{三八}主^{キリスト}の名^ゆとまうとま。王^{おう}をまのまひまう。天
えあらう和平^{ハラハラ}よ。ひとうきところみを榮光^{ヨハク}あらぐ
元^スあるざいのうちよりありパリサイのひと耶穌^{イエス}よいひけ

ハ師よすんぢの門徒をひそめよ。單うきらまへてへけり。
ハ。可きよんぢにつけんじの輩も。黙止ふ。石さけふ。ば
四。まことにちうづけむ。とき城中をみて。されば。あた衰哭い
ひけく。三。よんぢどす。今はのよんぢの日。あひて
よんぢの平安。よう。をれるこゝと。あらむ福。よしに。いよ
よんぢの目。よの。これ。三。よんぢの敵。よんぢのすそり
に墨。をき。四。方。より。う。みせめ。四。よんぢと。その中。よ
児。女。をうち。わうが。石。を。石のう。よの。よ。日。き。よ
らん。これ。よんぢ。その眷顧。たまふ。の時。を。あらざれ。あ
四。耶。蘇。え。に。い。そ。の。うち。そ。貿易。せ。り。の。を。あ。ひ。い

ア。六。われらに。ひけく。ヨリ。ノ。祈禱。の殿。あり。と。あ
よ。され。う。に。よんぢ。ちら。られ。を。盜。の。巣。と。る。せ。り。四。耶。蘇。日
ら。と。た。殿。よ。そ。き。ふ。祭司。の。を。學者。だ。もの。尊者。と
ゆ。かれ。を。殺。ん。と。う。れ。ど。の。民。う。る。こ。う。を。く。む。り。そ。ろ
き。く。を。き。け。く。が。ゆ。る。よ。四。あ。ま。ぐ。き。う。と。あ。ら。ぎ。う。き
第二章。そ。の。ら。う。耶。蘇。え。や。そ。民。伏。す。人。福音。を。宣。一
又。祭司。長。學者。長老。と。り。に。ち。う。より。耶。蘇。よ。の。よ。り。て。し。ひ
け。ハ。よ。の。權威。を。り。も。そ。う。こ。と。を。あ。ま。う。誰。が。こ
の。權威。を。あ。く。つ。だ。う。可。き。ら。よ。つ。げ。よ。こ。そ。て。い。ひ。け
る。可。き。も。一。言。よ。ん。ぢ。ら。ん。と。そ。ん。ま。く。す。れ。よ。つ。げ。よ

ヨハネのパプロスマも天より人より五 ウれらをひよひ

けり。り一 天よりとひも、さるばあゆゑを信ぜ

ざくやとりん六 よく人よりとひも、民をヨハネを預言

者と信せきをさきらを石みて擊んとてつりよこゑ

てひづれよりあらあらとひくハ耶穌ウれらにいひ
けり。とまもさるあらの權威七 にてうれを爲うをるん

ちらよつげ八 ○ まゐをちらのこゑを民にうれ。

ありひと葡萄園九 をつくり農夫十 久く他國へゆき
が+期十一 ひきびだうをうけの果十二 とうけとくわめた

僕十三 と農夫十四 のりとへつるも一けり。農夫どもうれを摸十五

ふきくわふしくくらせ十六 他のもとをつらせ
一にこきよらうちたとき辱十七 めてもわふくくらせ
り十八 また三次ありべをつらせ十九 にられとも傷二十 てあひひ
くけをば二十一 ぶだうをうけの主二十二 ひりい。これいにふき
ん、まふ愛子二十三 とつらをべ。られをみぢ恭敬二十四 農
夫二十五 どもうれをみくよひよ議二十六 ひけり。われの嗣子二十七
ひそくきをこうさん業二十八 をこれらのりのにふくよとそ
十五 うれを葡萄園二十九 のそとにしがく教せり。あらう葡萄

園三十 のあくド いふにうけたりを處三十一 がくや三十二 彼三十三 きくすてらの
農夫三十四 どもをいろがくがくをうけを他人三十五 あぐくす。

人々うれをきていひけり。然へあらざき^{ナセ}耶穌^{イエス}うきう
をえりひけり。匠人のまくる石られらそ屋隅の首石
とあれとありきれ。ふるんで大の石のうすあるも
のへ壊^{キル}らの石うすあらまをそのものこころくべ。祭司
のふき學者どもそのあれをさへてこの譬^{たと}た
るを。うのとき耶穌^{イエス}ととらへんとせり。くども民とお
それより^テまともちこれとうらうひその言をとりて方伯
の政事の權威^{リクイ}よこさんとみづから義人としゆる
三^ミ偵^ジ者をつくりせり。就て耶穌^{イエス}よひけりの師よされ
るんぢの言とどうすうするところ正^ハのううとよりを

誠^シとりて神^{カナヘイ}の道伏^{スル}うとある。ニ^二されら稅^ヲをカイザル^ヨ
きうむく^ハ宜^ヤやし。三^三耶穌^{イエス}のみ詭譎^{アキラカ}ありとあらへひけ
ハ。ふんぞ我^ヲこうろむ^ハ四^四テナリ^トされよ見せよ。み像^トと
號^ハうれある。こうへてカイザル^ヨと^リ五^五耶穌^{イエス}ひけ
ハ。きうちをカイザル^のり^ハカイザル^にをきめ神^のり^ハ神^ノ
よをきめよ^ハうきうち民^のよくよその言をもうねまづ
そのうへを奇^ハとありひて默然だ。○復生^モとあると
いふサドカイの人^キうて耶穌^{イエス}よとひけ^ハ六^六師^{ヨモセ}と
まことに書^{あけ}。り^ハ人のきうだい妻^{アリ}。子^モく
一^レ死^モ兄弟^モの妻^をめぐり子^を生^ケてその嗣^をつ

アと二十九さまざま七人の兄弟あらんに長子つまをめどり子
あくして死三十との二のりのこの婦をめどり子あくして
死三一もこれをめどり七人あもトくこれをめどり
子あくして死三二つひよ婦も死たり三三さまざま七人ともにこ
の婦を妻とせしゆゑは復生たらとまも誰の妻とする
べき三四耶穌三四五うそてひひけふ。この世の子ハめどりとうぐ
ことあり三六この世にいり死す復生よりの娶嫁
これまた死るなどあもざるがゆゑあり。そ
ハ天の使とひそく復生の子として神の子ふもあら
モ三七死トカのよきぐるらとてつきてモヒモーヒ棘中の

篇に主とアブラハムの神イサクの神ヤコブの神といひてこれを
あらむせし三八それ神ハあもトのりの神よあらむ生れ
の神あり。その神のまことにみる生りのみれがよ三九学
學者うちこへりひけふ。師よよくし四〇一のうちあくそ
耶穌四一よとわのあらうつき四二耶穌四三うきりにひひけふ。ひ
とくいふあれバキリストとダビデの裔といふ四三ダビデ四四
うち詩の篇四五。主四六。主四七。主四八。主四九。主五十。主五十一。主五十二。主五十三。主五十四。
んちの足凳五十五とあまをすゞつらげ手のうぎに坐まふとし
り五五さればダビデ五六十これを主とぞあへまきびしりでその裔
あらんや五五民五五ふこれをきけときそのでよいひけ

四六 長服をきてあらへらとてうのみ市上より人のあい
さう會堂の高坐よりまひの上坐をよろこぶ學者をつゝ
めよ。四七 きらも釐さん家の家をの。どうもてあがき。祈
をふを。罪せりふことゆくもあす

第三章 耶穌目をあけ富るひとの捐輸をきせんを
より見るまへあるまへとき釐婦のレバタうつる
いれくるをみてりけふ。ヨハネ誠にふんぢらよづけん。こ
のきしめ贋へまづるのゆのよより多くきこへ。そへ
きらん。しみその義餘あるところより神のまゐる
にいき。このさんか不足とろよ。そのしんどいをこ

とくくりましたれをすり。五 まへあひと殿の美石と奉納
りのとめて修飾ることをくだり。六 耶穌りひけり。ふ
んぢりのうとこうのりの石と石のうよものこさをくら
さう日いそらん。七 きらうとくせいひけり。師よりつまひと
きこの事あらん。正よこのことのきらんときらう。兆あ
るや。八 耶穌りひけり。ふんぢらつてしまふまともさう。こと
あうれ。そのあらくのりのひがふはきらう。我ハカリ
スト。九 時ひちうすきうといさん。さきどふんぢうあらふ
あれ。戦ひざきをきくときあそぶあうれ。うきりのこ
とのききよあら止をえぐる。うきよ。うきど末期とい

まざきくべりあらむ十まざりひけり。民へこみをせめ國へ
くもせめ士各處よりあらひる地震饑饉疫病あり。まざ
あらびきこゝあらひる異象天よりあらむべ。士
のことすり先ヌヒリぐるんぢりとくへ窮迫會堂か
よび獄ヌモト。ヨリ名のあら王あらび候のまざりさゆ
アラキミドロスルンぢりの事ヌアラ證とあるナリ。也
スルんぢり先ふらをこくんとありひらうま。きこと
心ヌカダリ。五そひまづてスルンぢりに仇なり。辨駁
まざ敵對。シムをあへてえざるべき口と智とをされスルンぢり
にあらん。まざるんぢり父母兄弟親戚朋友るとより

コロキ。うるんぢりのうち或へうろきく。まざるんぢり
ヨリ名のこめよひとくよ憾きん。さきどもスルンぢりの首髪
りくもくもく。十九スルンぢり忍耐てその生命をま
つまうせよ。スルンぢり軍勢にエルサレムのうそくとみゆゑ。
その亡ちうきよあとおき。二その時ユダヤよきるりの山。ま
のうれよエルサレムよきるりのひよ郷下にきるりのエルサレム
よいりふれ。これ刑罰の日。すこくあられたらこくのみ
ふ應ら。日あり。三その日。多く懷孕と哺乳者もつまざもひふ
る。これ地はあらひる災。ありて怒らの民。すあらぶ
づれきを。ひとく刀刃よく。それまくとくられて諸

國よりひれエルサレムを異邦人の時みづまぞいひきうおな
躁躪さきあざるべく五まゝ日月星は異象ありべし。地より諸國の人
かある海と波との瀬澗せじまよりてうろこへ六ひらぐあれ
て世界よりそらんとすらことを俟まわるむべし。これ天のい
まろひ震動じんどうをへけきるゝをものときひとぐそ人の子の
權威けんゐとあるのする榮光えいこうとりて雲よりうきるを見るべし。六
らきらのうとの成なまそめんとまよふ起てそんぢらの首と
あげよ。そんそんぢらの贖しゆあらうりをあり二九耶穌イエスとくへき
くきりよ語かたけり。無花果モクモクとまごの樹じゆとよ三七まごに崩くず
をそんぢらこれを見てみづく夏なつへもや近ちかとある三九

のうそくそんぢらもうまくのうとの成なまをみぞ神の國の
ちうきまきをあき三まゝとそん我そんぢらにつけん。この事ことあ
あるまゞかこの世よへ遊まわべ三三天地あまぢへまくるべし。さとど
もヨリ言いたまくまくづくらむまそんぢらまくらむと慎まことに
あるそらの飲食くみよふりあ世事よまとそれそんぢらのそ
ろ昏迷まくまくありひよらざるときようの日ひそんぢらよ
臨まん三五これ機檻きわんのうとくまあくねくま地ぢのうとく居まりのそ
そもべ三六ふゆもよそんぢら儆醒けいせいてこののぞまんとそ
ろすづのうと避よまた人の子のまよ立たらゆうたつね
ゆりのれモロコシ耶穌イエスりう殿てんよそくへ夜よもひゞ橄欖がんらんとい

山宿三日庶民三日三日とて朝もく
殿もきも

第二章

逾越とりの除酵餅節ちうづく。祭司のとき學者
うちうにしよく耶穌をこうさんとうぶふ。民をあ
れこうさてサタン十二のうちのイスカリオテととあくユダ
エリウヌ。とき祭司のときうちと庶司どもにゆき。いろん
くよ耶穌をこうさんとかうけまへ五。われらよろひく
銀子をあそんと約束六。ユダうけびりひとぐの居さる
とき耶穌をこうさんと機とうべくのとき除酵餅
節あるとき。の小羊をこうすをづき日よりけき。

ハ耶穌ペテロとヨハネをつらさんとひけく。やまくあれ
らが食せんために逾越をそよよ。われらこくけく
何處えられをそあんとあく。十。耶穌ひけく。城下
よいうち水をいきくる瓶をりくる人さんちらと遇て
そめ入ところの家とひよく。土家のあうと。師
あんぢよい。され門徒とひよく逾越を食を。客房の
いづこよあたやといへ。さまれを彼そよく。あるいる
樓ざきをうべ。そくよ備よ。うちれらゆきて耶穌
のりひよまひく。遇く。よしきのそよく
をあせり。古時いづけき。耶穌食よつまぬ。まく使徒も

ヨリニツキテ 十五 耶穌

イエス

キリスト

キリスト

うくるまゝよんぢらとヨリニコの逾越を食むること
大よねケド、されそんぢらにつけん。これと神の國え
應成までまゝこれを食せド。 十七 耶穌杯をとう謝
てソひけり。これをとうてくびよきくよ。 十八 こゑ
んぢらにつげん。神の國のきくままでの葡萄よりつ
りりのを飲ド。 十九 また餅をとり謝して擘く
にあくべいひけり。これそんぢらのためにあくべ
る身體あり。これを記んこめにこれをあせます食
しもの。杯をとうひひけり。この杯はそんぢらのまゐ

ヨリモヨリ血よして立るとそろの新約 二十 そきうれ
そきうれりの手ハされどヨリニ案にあり三人の子ハそ
うそきうめられうららしく遊ん。されども人の子を
そきう人をつぎひるうな 二十一 衆うめことせんりの
へ誰するうとつぎひくとひぬ 二十二 まさうきらのうちとて
長うりの誰するうと互のあらそひあつき 二十三 耶穌
きらにひけり。異邦人の王ハそめ民をあそひましまそ
のうよ權ツルをそらわゆへ恩をばとそきうのと稱らる 二十四 され
どもそんぢら如是まくらを。そんぢらのうち大すら
りのひこうきぶごく。首うりのへつうりのひこう

食モフテリモ役事ハラフリモソウガモアモイ
食モフテリモのあらま。さきとくモ我ハあんぢうモ中ニ
フテリモアリモトモハモアレモ患難クンナムモアリトモとモ居リ
アリモるんぢうモアリモ父ハのモキモ任セズモアリモ
アリモるんぢうモ國ミトモ任セズモアリモれ
アリモるんぢうモ國ミトモアリモれ
ありモチモ食案カシモア飲ヒシモうモ位ミモア坐スシモイスラエルミサ
の支派マケセモもモんモアリモ主ミまモヘモひモレ
よサタンモあんモちモりモめて麥ヒのモーモーモ藏カニんモとモ三ミされ
どモあんモのモ信モ仰ムこモそモう雨モのモだめモにモひモりモふ
んモ歸カニ正モんモきモのモ兄モ弟モをモせモシモンモひモりモ

主よこれ獄^獄よりまでもるんぢとありよやんと一^一をきき
めたり^{三五}耶穌^{耶蘇}のひけ^ハペテロ^コそれさんぢに^ハびんけ^ハ鷄^{トリ}
ありざるまくよろんぢ三次^{ミツ}あれを^ハらきといそん○^{三五}ま
うきらん^ハりひけ^ハ。され財布^{チアブ}旅袋履^{ルガタヒ}すよりたを^ハるん
ぢりと遣せ^ハとさうとの缺だることあり^ハ。こ^ノへり
のあう^ハき^{三六}耶穌^{耶蘇}うきらん^ハりひけ^ハ。今^ハきり^ハありの
へこれを取^ハび袋^{カバン}ありの^モま^ハあうり。これらを^ハりぬも
の^ハ衣服^{ウエア}をうりそ刀^カをふ^ハ。されさんぢらに^ハびん
うれの罪人のうちに^ハのぞくらまきてあう^ハと録^キま^ハるこ
の言^ハてき^ハあるてと^ハせらうべ。そのことを^ハ指^ハすこ

とんくらうを成らうべりきがる。六、うきらりりけん。主
みよにうなうたう刀あり。耶穌れらにひけら。足り。耶穌
りゆく例の山々橄欖の山にゆき下りてその門徒もあ
ぐる。四、そのところより下りてうきらりよびひり。誘惑
ヨリラガラやうひりと四、耶穌。うきりをもみれて石の投り
石とてモリ曲膝いのりひけら。三、父より。聖旨ようふ
をもこの杯とされようもうちだす。さもともこゝ意
あらきし。聖旨のまゝにうながす。三、天使天より
にあらわきて健壯をそへぬ四、耶穌。いづれ哀あきら
いの事。その汗の血のあくらうのごとく地にあもく
る。

四、五、祈よりうちく門徒よきうきまうが憂てねむき
るを見異ひひけら。あんぞねむりや起てまとひよいりぎ
やう祈せ。四、六、言とき許多のひじぐきく。また十二
のひとりある。ユダといふ。りのそきにまもうちて耶穌よ
接吻せんとちうよれり。四、七、耶穌。いひけら。ユダ。あんち。接吻
きりて人の子をまく。四、八、そのうちまくにあくらうの
ども事のあよしんとまくをみてひけら。主よつれらつ
るをとりて撃べき。四、九、そのうちひじく祭司の長の者
づをうちてその右の耳をきりあせり。五、耶穌。こうへて。こ
きく聽せといひ。その耳よきまくといひし。だり。五、十、耶穌。一

にきこりし祭司のまき殿の庶司と長老ともにいひけり
ひ。うんぢら刀と棒とをりちきく。強盜もむかふべとく
まうちうち五三これ日々よあんぢらとどりに殿又ありしとま
コラれに手をあくことあるうちき。あうちうに今もあんぢらの時
クの黑暗のいきくわひあり四三きくら耶穌とそりへ曳て祭
司のまきの家につまゆけり。ペテロもまたに従ひぬ五三ひく
中庭のうちも火をさきてとおに坐し。けきるべテロもその
まうに坐あくら五四ある婢うきが火のこのまもらに坐まう
を見られをつらうてひけく。この人めうきとどりは
あり五五ペテロうけがもさく。女ようされこれをあくを

とひくら五六ちもくくして他の人もまく見てひけり。お
んちもうれらの一人あり。ペテロひけく。人ようされがあくら
を五九あ不よそ一時石どまきとまくやうの人にひもうけり。
まくとくにこの人もうれとどりふあう。これガリラヤの人ふ
きがる五八ペテロひけく。人ようされさんちの言とこうを
識すとひひもむくを忽ちひくとうるきぬ。主身をうへ
こそペテロを見たまく。今日にまとう鳴まくよ三次うれを
あらきとひもんと主のひだまひし言とペテロありひく
六三そくとひびく。哭を○耶蘇をすりきるりものとゆ
嘲弄してうきを撰六四その目とあらひとあくひけく。あんぢ
六五うきを撰六四その目とあらひとあくひけく。あんぢ

とうりの誰より預言せよ。五まくさむのことをいひてこれを譏説す。六平旦は民のとより祭司のとき學者どもあつよりて耶穌を集議所ひきゆきて。七ひければ。八んぢりキリストるらばこれらもつけよ。耶穌いひける。九んぢり我そんぢらにいふとも信ぜざりべ。六まくさくとひ我そんぢらにあとも答ざるべ。九今よりのち人の子の大權ある神のまきに坐せんキ。みふひひけり。きらべるんぢの神の子。十そんぢらがひくる。じとく我をこれあう。七くまでりひけり。八不證據をもひ。九んや。つまらみがたりその口よりきめり。

第十三章

りとくよ起て耶穌をピラトにつまらきニシキを譏りひけり。三そくらしの人が民をすどく。税をカイザルヌをさむこと禁止。みくら玉るキリストととあくとを見。四ピラト耶穌よとくてひひけり。そんぢユダヤびとの玉ふく。五そくにひけり。そんぢゆく。四ピラト祭司の長たもと衆よりひけり。これらの人々あつて罪あつてうちを五そくましく極力ひけり。かれいかリヤよりそれめてもすくましくユダヤ族をくらひ處まできく。六民をみくせり。六ピラトガリヤときてこひ人もガリヤ入る。七をとひ。そのヘロデの所管あつてあつてこれをヘロデに

ある。この時ヘロデもエルサレムにあり、^ハ耶穌と見てゐる。これを見んことをありひ。またその奇跡見る事とえんと望み、きみをうかがひ。またその多言をりて、いりけり。耶穌もまたうかがひ。祭司のとき學者たち側ようちもあきうり。ユウハをうつてぬ。ヘロデの士卒とどもにうきをうろしめ、嘲弄して華服をき。またピラトもあきうり。ナピラトとヘロデさきだらを仇うり。が當日、うかりよあくまくをす。○ナピラト祭司のとき有司あび民どもとよひあつめて、いひけり。あんぢらよ。

人をうねよつまきくらべ民をみだりたるやのようくせり。されあんぢらが訟るところをあそぶんぢらのまへに鞠くすどりその罪ありとさむ。ヘロデもまたあく。あんぢらをヘロデにつくもせどうきよ。耶穌イエスが死マリことの死罪マリもあく。えきうきカミ故ヨリこれわむちうらうて、こわをゆくさんヤクシての節期カミもうあらむりとカミと釋カミことあはれふあり。大うきよも一齊イチイうむりそこの人を除ハタハタき。ハバを立まつてゆくといふ。先ハシくまく城下シタよ一揆イチイをあらへ人ヒトをうらへて獄ヤクいり。もの多く平ハシ山サンをよび、三衆サンスウをもつりて。これを十字架イエスよつまくわらにひくと。

十字架よつけよとひよ。ビラト三次ひひける。うれもさん
の悪事をせしやされいよごうきの死罪ありとまわら
答うちてやうさん三うきうちもん二聲をうくうきを
十字架につりんといひ慕き。つりようきらと祭司のと
さのこゑうち三ピラトその求のごとくきあて五
らかねぐる一揆をあくへんとこうへて獄よりも
のを釋二そのこころよまうせて耶穌二うめ三耶穌
をひきゆくとき田間よりりできたまうクレ子のシモント二
るすのとどうへそれよ十字架をあませて耶穌二うめ三耶穌
せうあやくの民あまび婦二うめ三婦二うめ三も

うきをあきうるしめり六耶穌二うきうち二ひひけ二。
エルサレムの女子一うき二あめに哭一うき二あのせとあふ
子のためにある二九産二うき二りのひよく孕一うき二の胎一うき二哺一うき
せぐるの乳一うき二福一うき二りとひそん二日一き二らん二その時一うき二りと
山一うき二むろしてつらうへて厭一うき二よ陵一うき二にむろひてこれ一うき二て捲一うき二とい
もん三うき一青木一うき二よさく一うき二あさを枯木一うき二ひづせら一うき二せらきん
○まゝ他にあらうの罪人一うき二を耶穌一うき二とどりに死罪一うき二あふる
んとくひきゆけ三うきうちクラニオ二とひく一うき二ところにい
りそよ耶穌一うき二あまび罪人一うき二を十字架一うき二つけぬ一うき二一人を耶
稣一うき二の右ひとう一うき二を左にあく三耶一うき二耶穌一うき二ひけ一うき二父一うき二ようれら一うき二をめ

ヨハネ福音書の所爲をあらざりがゆゑあり。これら鬪を
して耶穌の衣服をうちり立て耶穌を見たり。有司
もまたあきづきりひけり。うきの他人をまくら
り。キリスト神のえらみうるよりのふくべ自をまくら
べ。三六兵卒もまたうきを嘲弄し。まくら酔をあくまで
さんぢり。ユダヤびくの王さんびうらをまくらと
りくら。まくキリキヤロマヘブルの文字にて。これくユダヤひ
とり王さんとうけり罪標をそのうへに建て。○元懸られ
うち罪人のひく耶穌をそくりてひけり。さんぢり
キリストさんうをあのれとそれらをまくら。單なる一人こ

うへてうきをひよめひけり。さんちあるト罪を
うけふら神をあそれざら四十二ねらは當然もう所行
ことの報をうくるあれどうの人もゐて。不思うくのあ
きまくさんうきされを憶ふ。耶蘇よひけり。さんちその國よ
に我さんちにつげん今日さんぢられとどりに樂園よ
在づ。○四時あはよそ十二時ごろよう三時ままで
あやねく地のうく黑暗とあまう四五日光くら。殿のうち
の斗帳をあくすり裂けり。四六耶蘇あわざゑよよむうり
ひけり。父よおがたまひをさんぢの手にあづく。うくじて

氣エモリ百夫の長モリハシの五ウノアケアケトを神カミを祭マサニめそり
けく。まことこのひとの義人キトノヒトを見んとそ
聚モリひとくモリくモリみのあくモリーモリトドリモリくモリ膺モリを抱モリ
くモリきくモリ四九耶蘇ヨクヨスの相識モリひとくモリよびカリラヤヨブカリラヤよりお
さうひモリ婦モリともどろくモリ立てモリこきらモリることを見モリ○集モリ
議官モリヨヒモリとモリ善モリくモリ義モリるモリひとありモリ五ウキラ
の評議モリと所爲モリをうけモリぐをモリうりき。これモリユダヤモリアリマタヤ
の邑モリの人モリよて神モリの國モリをまくるモリのすモリ五ウニモリ人モリビラトモリ
ゆき耶蘇ヨクヨスの屍モリをモリりて五ウニモリれモリあらモリ布モリそつ
いモリよモリ人モリを葬モリ一モリとモリ石モリの鑿モリラモリ墓モリにモリけく

吾モリこの日モリも備節モリモリ。もう安息日モリちうづきモリ五五ガリラヤモリより
耶蘇モリとモリにきモリ。婦モリうち後モリよもモリがひそその墓モリと屍モリ
のあれモリるモリを見モリ。五六れモリうモリへモリ香料モリと香膏モリをモリ
のひあきて誠モリよもモリ安息日モリをやモリめモリ
第七モリ七日モリの首日モリの昧爽モリよこの女モリうち備モリあきモリる香料モリ
とりちモリ墓モリよきモリにふくモリの女モリとももとめにきモリれ
うモリ二モリきらモリ石モリの墓モリより轉モリ。そこに入モリけきを主モリ耶モリ
蘇モリの屍モリとみぞモリこじモリがためよ躊躇モリ。にうモリやけ。衣服モリをきモリ。二人そのうちようてモリ五ウきらモリあそ
れそ面モリと地モリよみせモリきぶその人モリいひけモリ。あんぢらモリ

んぞ死する力をうちにも生まうりのと求るや。うれしきにあらを復活す。うきガリラヤも居しときたんぢらにうそて人の子もうあらを罪ある人の手よとまれた字架につりま第^{ミツラ}三日よりみぐるべとひじうを憶ひでまへきらるる言をありひひで九墓よりのくらてこれらのこととくと使徒よびけりのマグダラのマリア。ヨハシ。ヤコブの母あるマリアまた他よとくにあつた女ともあり士使徒そののことを虚誕とありひて信せむべ起きてちく墓をやきうどまつて泉布のくわせあくを見

てその遇ことうのこととを奇しうへまう○當日^{ミタヒ}の門徒エルサレムより三里許^{ミルキサム}へくるエマラといふむらにゆきけりにたがひよこれらの所遇ことともをうへうあく^{十五}のアリ論^{アリ}あるときニ耶穌みづから近づきてともゆゆけり十六されどその目まだりされて知ることを得^スき耶穌いひけり。あんぢりあるとづながひゆゑみ談論^{トラン}らふあるをや。その一人のシオバといふゆのこゝへりげく。うんぢりあるとづながひゆゑみ談論^{トラン}らふあるエルサレムの旅びとよあて獨^{ソロ}このごとうあることをやうがまうるへりえ。あよごとくや、これよひけり。サレの耶穌のこととみうらの人も神と萬民のまへあひて行と言ふあろい

ある能あつ預言者よりハ平祭司のときと有司うち
うれを死罪シテて十字架につけられニつてまわら
イスラエルを贖キムもんめのいこの人ありと望マツリ。まさこそ
きのくあらを此等のことの成ルよりけかル第三日る
に三ミでマツリの中あるある婦ハうちハれらを驚駭せり。
ウキラハきりの中あるある墓ハやき三ミそハの屍ハをミモハくき
リ天ハの使ハあらそれて彼ハよみハきハとハ見
こりとハ西ハまく我ハらハとハりにありハりのう墓ハ
やきだきハ婦ハのいハびハとハ見て且ハうきハ見ざりき
主ハ耶穌ハいハけり。預言者のすぐそりひハてハとハ信

むろこううの運ハあううするりのよ二六キリストをこれら
難ハとうけてその榮光ハりハきにあらハモハにモハセ
よりハくの預言者ハもハめハくの聖書ハあら
あらハきハつきハのハとハ詳ハ明ハされハりハウキラハ
とハうの鄉ハちうづきハり。彼ハゆきハきんハもハるけ
くハきハうせハ二九ハうれハもハめハいハけり。日ハうたうき
て暮ハにあらびハぬ。うきらハどりに止ハき。うれいハとハも
まる三十うらハ食ハつハとハき餅ハとうハ謝ハとハ肇ハ
きらハあハけハ二徒ハのりハ目ハあハらうハてハあ
りく彼ハあハきハ。まく忽ハの目ハえハるハれ

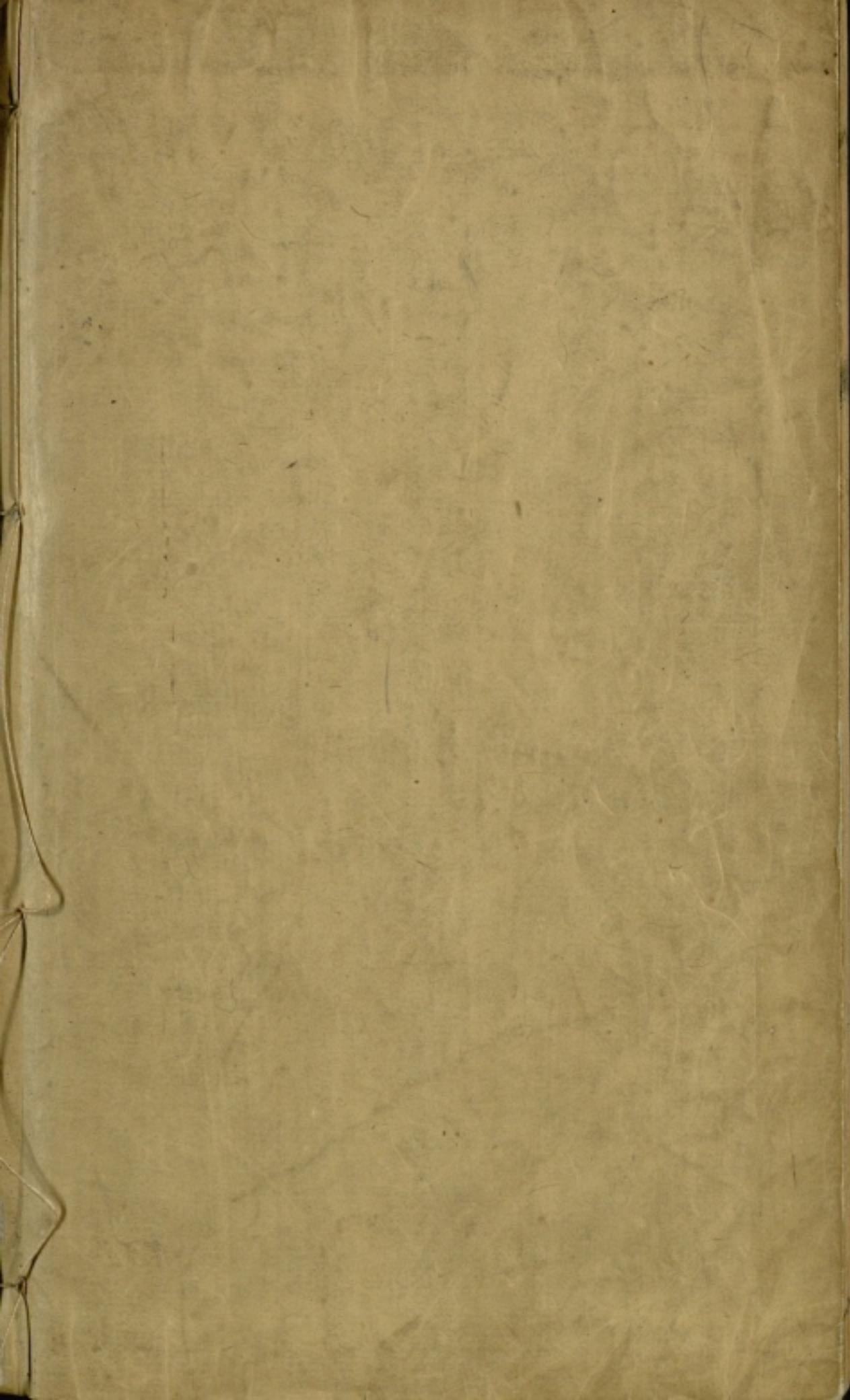
りなげひよりひけり。途間までこれららとくまううつ聖書
を解ひらけるときこれへがとう熱ヒートにあらまし。三この
ときうちきら起てエルサレムより十一の門徒あすび同人のあ
つまうをよあふ。三その人とものひひけり。主實ヒトシ
よこぐらシモニヒトシモニあらむれたり。五二徒も途間まであり
しこく餅を擘ハサフたまへてすうて識シテだ。こくをくき
り六このこくをうべきるとき耶穌イエスしふくらその中に立
ていひけり。あんぢら平安ハセキうきぢら驚駭ハラハラもそれで
えらところのわのを靈ルカあらんとありへう。六耶穌イエスひひけり
へ。あんぢらあんぞあどくやあんぞこうは疑ハダハタあつる。

ヤ三九から手足ハタツをこそまれるハタツをあれ。これを模モウて
ま靈ルカをつらハラハラあらそんぢらが見るごく肉スズクと骨スカルへあ
らきるあり。四くくひしてその手足ハタツをこそせしに。くれよ喜
どもる信ハシムせき。奇異ハラハラるとこよ耶穌イエスこくに食物エサあり
といひけり。五を三枚ミツマツうち魚と蜜房ハチイモとあくふ。三これと取て
そろまくよ食ハシムせき。まくうまくにいひけり。モーセのあ
きと預言者の書まで詩の篇ハラハラとあくまれて。三これとくに
つくまぐらの二つのうるうを應ハシムべさせられわくるん
ぢらとあり。時ハラハラうきる。三くろある。五こくにあ
いそ聖書ハラハラせんとそその聰ハラハラ四六ひひけり

ハモリヨウ録。のキリストも苦をうけ第三日
にまごるべ。まくその名によりて悔改と赦罪す
エルサレムよりも。まう萬國にのべてからまんへるんぢ
へられの事の證人す。されど父のちうひのりと
あんぢらにあくらん。あんぢら上より權をきざめらる
まぐるエルサレムにとしまれ。耶蘇うきらとまひきベヌヤ
にいきり手を舉てうきらを祝。祝するときうれら
をもあき天よあげられ。うきらこれを拜。とい
たくすうじびエルサレムようく。三つねよ殿にいきて神を
頌美。祝謝せり。アーメン



95-91196



跡加傳

明治十四年

いわち老人用聖書

四福音書、使徒行伝、羅馬書を正倉院
安置する